



令和5年度 青森市子ども会議 活動報告書



令和5年度青森市子ども会議フォーラム2023

FOR CHILDREN

～とどけ！市（まち）に私たちの声！～

【令和5年11月19日（日）開催】

～ もくじ ～

◆ 青森市子ども会議活動報告

令和5年度の活動	・・・	1
事前顔合わせ会開催概要	・・・	3
臨時会議開催概要	・・・	6
臨時会議その2 開催概要	・・・	9
第1回開催概要	・・・	11
子どもの祭典開催概要	・・・	15
第2回開催概要	・・・	18
第3回開催概要	・・・	20
第4回開催概要（青森ねぶた祭における子どもの権利普及啓発活動）	・・・	22
第5回開催概要	・・・	23
第6回開催概要	・・・	25
第7回開催概要	・・・	28
第8回開催概要	・・・	30
第9回開催概要	・・・	32
第10回開催概要（まつもと子ども未来委員会（松本市）とのオンライン交流会）	・・・	35
第11回開催概要	・・・	39
第12回開催概要	・・・	40
第13回開催概要	・・・	41
青森市子ども会議フォーラム2023 FOR CHILDREN	・・・	42
～とどけ！市（まち）に私たちの声！～ 開催概要		
第14回開催概要	・・・	55
第15回開催概要	・・・	57
第16回開催概要	・・・	59
第17回開催概要	・・・	60
子どもの権利トークイベント	・・・	61
第18回開催概要	・・・	64
令和5年度 青森市子ども会議 活動報告会	・・・	65

◆ 令和5年度青森市子ども会議委員・青森市子どもサポーター名簿	・・・	70
---------------------------------	-----	----

◆ 青森市子どもの権利条例	・・・	71
---------------	-----	----

青森市では、「子どもの権利条例」に基づき、市政などについて、子どもが意見を表明し参加する場として、青森市子ども会議を設置しています。

令和5年度の活動

回	開催日	内容	参加人数
事前顔合わせ会	R5. 4. 22(土)	<ul style="list-style-type: none"> 青森市子ども会議について、自己紹介 子どもの権利に関する講義 令和5年度活動テーマについて 浪岡子どもの祭典について 	子ども会議委員 15名 子どもサポーター4名
臨時会議	R5. 5. 21(日)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの権利普及啓発Tシャツについて 令和5年度の活動について 浪岡子どもの祭典について 	子ども会議委員 15名 子どもサポーター4名
臨時会議 その2	R5. 6. 11(日)	<ul style="list-style-type: none"> 第1回青森市子ども会議に向けた準備 浪岡子どもの祭典に向けた準備 	子ども会議委員 10名 子どもサポーター2名
第1回	R5. 6. 25(日)	<ul style="list-style-type: none"> 市長報告リハーサル 市長報告 浪岡子どもの祭典に向けた準備 	子ども会議委員 18名 子どもサポーター3名
子どもの祭典	R5. 7. 2(日)	子どもの権利等に関する出張普及啓発活動	子ども会議委員 13名 子どもサポーター4名
第2回	R5. 7. 22(土)	夏休みの活動について	子ども会議委員 11名 子どもサポーター2名
第3回	R5. 7. 30(日)	夏休みの活動について	子ども会議委員 13名 子どもサポーター3名
第4回	R5. 8. 2(水)	青森ねぶた祭における子どもの権利普及啓発活動	子ども会議委員 11名 子どもサポーター4名
第5回	R5. 8. 14(月)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの権利に関する講義 グループ活動 	子ども会議委員 8名 子どもサポーター2名
第6回	R5. 8. 16(水)	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動 青森市清掃工場の施設見学 	子ども会議委員 12名 子どもサポーター1名
第7回	R5. 8. 19(土)	グループ活動	子ども会議委員 7名
第8回	R5. 8. 27(日)	<ul style="list-style-type: none"> 国際芸術センター青森の見学 棒パン体験 	子ども会議委員 8名 子どもサポーター3名
第9回	R5. 9. 10(土)	<ul style="list-style-type: none"> オンライン交流会と子ども会議フォーラムに向けて 子どもの権利に関する講義 	子ども会議委員 9名 子どもサポーター2名

回	開催日	内容	参加人数
第10回	R5. 9. 24(日)	・オンライン交流会と子ども会議フォーラムに向けて ・松本市とのオンライン交流会	子ども会議委員 6名
第11回	R5. 10. 7(土)	・市民図書館の展示タイトルについて ・子ども会議フォーラムに向けて ・子どもの権利に関するパネル展の展示物の作成	子ども会議委員 8名 子どもサポーター1名
第12回	R5. 10. 28(土)	グループ活動	子ども会議委員 4名
第13回	R5. 11. 11(土)	子ども会議フォーラム 2023 に向けて	子ども会議委員 7名 子どもサポーター1名
フォーラム	R5. 11. 19(日)	青森市子ども会議フォーラム 2023 FOR CHILDREN ～とどけ！市（まち）に私たちの声！～	子ども会議委員 11名 子どもサポーター4名
第14回	R5. 12. 23(土)	・子どもの権利トークイベントについて ・グループ活動	子ども会議委員 7名 子どもサポーター3名
第15回	R6. 1. 27(土)	グループ活動	子ども会議委員 9名 子どもサポーター2名
第16回	R6. 2. 3(土)	・子ども会議フォーラム 2023 の振り返り ・グループ活動	子ども会議委員 8名 子どもサポーター1名
第17回	R6. 2. 17(土)	・グループ活動 ・子どもの権利トークイベントに向けて	子ども会議委員 8名 子どもサポーター1名
トークイベント	R6. 2. 24(土)	子どもの権利トークイベント	子ども会議委員 10名 子どもサポーター2名
第18回	R6. 3. 9(土)	グループ活動	子ども会議委員 6名 子どもサポーター1名
活動報告会	R6. 3. 17(日)	・令和5年度青森市子ども会議活動報告会 ・今年度の活動を振り返って	子ども会議委員 14名 子どもサポーター4名

令和5年度 青森市子ども会議 事前顔合わせ会

- 1 日 時 令和5年4月22日(土)9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市役所 議会棟4階 第1・第2委員会室
- 3 出席者 会場参加：子ども会議委員13名、子どもサポーター4名、事務局3名
オンライン参加：子ども会議委員2名
- 4 活動内容 (1) 青森市子ども会議について・自己紹介
(2) 子どもの権利に関する講義
(3) 令和5年度活動テーマについて
(4) 浪岡子どもの祭典について

5 開催概要

青森市子ども会議は、青森市子どもの権利条例第14条に基づき、まちづくりをはじめとした市政などについて、子どもが意見を表明し参加する場として設置され、小学5年生から原則18歳までの子どもたちで構成されています。

今年度は、子ども会議委員23名(小学生8名、中学生10名、高校生5名)と、子どもたちの活動をサポートする子どもサポーター9名(学生6名、社会人3名)で活動をスタートしました。

青森市子ども会議について・自己紹介

はじめに、事務局から青森市子ども会議について説明がありました。青森市子ども会議は、子どもの権利の4つの柱の中で「意見を表明し参加する権利」を特に大事にして、主に、青森市のまちづくりなどを調査したり、子どもの権利について学び、みんなにも知ってもらうための活動を行ったりしています。令和4年度は、「青森市の〇〇をはっしん！」をテーマに様々な活動を行ったことや、これまでに子ども会議フォーラムで提案した意見が青森市のまちづくりに実際に取り入れられた例など紹介してもらいました。

次に、自己紹介を行いました。青森市の好きなおとこや今年度やりたいこと、好きなものもあわせて発表しました。



子どもの権利に関する講義

次に、子どもの権利擁護委員の関谷道夫先生から、初めて顔を合わせた子ども会議委員同士が仲良くなるきっかけとして、アイスブレイクも含めた子どもの権利に関する講義をしてもらいました。

アイスブレイクでは、最初に握手をしてお互いの自己紹介、次に声を出さずに誕生日順に並ぶ「バースデーライン」やペアになった人の素敵だと思ったところをすぐに見つけて3つ言い合う「いいところ探しゲーム」を行いました。

他にも、毎年恒例の「最近あった良かったことや気づいたこと」、「今一番大切な人」などのさまざまな質問に答えて、全員で拍手をする「Good & New (グッドアンドニュー)」を行いました。

今年度から参加した新しい委員は最初とても緊張していましたが、アイスブレイクを通じてみんなと打ち解けることができました。いろんなメンバーと楽しく今年度一年間活動したいと思えます。



令和5年度活動テーマについて

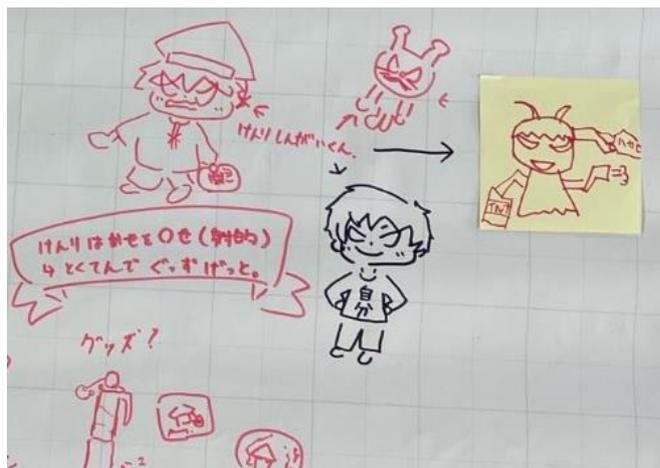
続いて、今年度の活動についてみんなで話し合いました。まず、一人ずつ今年度やりたいことについて発表しました。高校生委員の進行のもと、出された意見をグループ分けし、5つのグループに分けました。その中から今年度活動したいこととして1人2つずつ選んでもらったところ、1番票数の多かったものを除き、全部同じ票数になりました。そこで、5つに分けたグループの中からさらに共通点を探すと、「もともとある魅力の普及」と「改善・新しく生み出す」の2つのグループに分けることができました。

<出された主な意見>

もともとある魅力の普及	改善・新しく生み出す
・ラーメン、アップルパイ、ソウルフードなどの食	・仮想のまちづくり
・青森市出身の有名人	・読書の呼びかけ(図書館やおすすめの本の紹介)
・温泉	・本のバリエーションを増やす
・YouTube や Instagram で発信	・ゴミ拾い
・SNS を通じて短い動画でPR	・雪でねぶたを作る
・子どもの権利相談センターの周知	・トーク、スポーツイベント
・ねぶた祭のPR (動画や雪像)	・公園にアスレチックの設置
・青森市内にある建造物の“なんで?”	・フリースクール等の紹介
	・子ども自身が自信を持てるイベント

浪岡子どもの祭典について

最後に浪岡子どもの祭典の出し物について話し合いました。浪岡子どもの祭典は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になっていましたが、3年ぶりに7月に開催されることになりました。過去に参加したときの出し物を参考に、やりたいことを考え、スノードーム、クイズラリー、わなげ、射的やけんりはかせを探せ！（宝探しゲーム）が挙がりました。射的の的では、けんりはかせではなく、「けんりしんがいくん」という新しいキャラクターを作ってそれを的にしようという意見が出て、「けんりしんがいくん」を考えました。



次回の会議では、今年度の活動についてもっと詳しく話し合い、活動テーマや第1回会議での市長報告に向けた準備を行います。

令和5年度 青森市子ども会議 臨時会議

- 1 日 時 令和5年5月21日（日）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席者 会場参加：子ども会議委員13名、子どもサポーター4名、事務局3名
オンライン参加：子ども会議委員2名
- 4 活動内容 (1) 子どもの権利普及啓発Tシャツについて
(2) 令和5年度の活動について
(3) 浪岡子どもの祭典について

5 開催概要

第1回会議と浪岡子どもの祭典に向けて、臨時会議を開催しました。今年度はまだ2回目なので、初めに体を動かすアイスブレイクを行ってから活動を開始しました。

子どもの権利普及啓発Tシャツについて

進行役は、積極的にやりたいと挙手した小学生委員が務めました。今年度入ったばかりの委員でしたが、みんなの協力もあってスムーズに話し合うことができました。

まず、みんなが事務局に提出したデザイン案について事前にLINEで投票を行ったところ、圧倒的にみんなからの票が集まったデザインがありましたが、2番目に票が多かったデザインは同数で3つあったので、多数決で決めるか、組み合わせで新しいデザインにするか迷っていると、「正面のデザインと背面のデザインそれぞれで投票したい」という意見が出ました。票数の多かった4つのデザインの中から、再度Tシャツの正面と背面のデザインでそれぞれ分けて投票を行うことにしました。

投票の結果、正面は最初から人気の高かったけんりはかせのモチーフと“AOMORI”の文字が入ったもので、背面は大きく“KODOMO NO KENRI”と書かれたデザインを組み合わせるものに決まりました。

デザインが決まったので、次にTシャツの色について話し合いました。Tシャツのカラーバリエーションが豊富だったので、赤系や青系など似た色ごとにいくつかに分けて多数決をとったところ、青系が1番人気でした。青色の中では、ライトブルーとネイビーの2つが同じ票数になったので、決選投票を行いネイビーに決まりました。今年度のTシャツはネイビーに白色の柄のデザインになり、実際に着るのが楽しみです。



1 番人気のあったデザイン



次に人気のあったデザイン



令和5年度の活動について

前回の会議では、「もともとある魅力の普及」と「改善・新しく生み出す」の2つまでグループ化できたので、今回は今年度の活動についてさらに詳しく話し合いました。

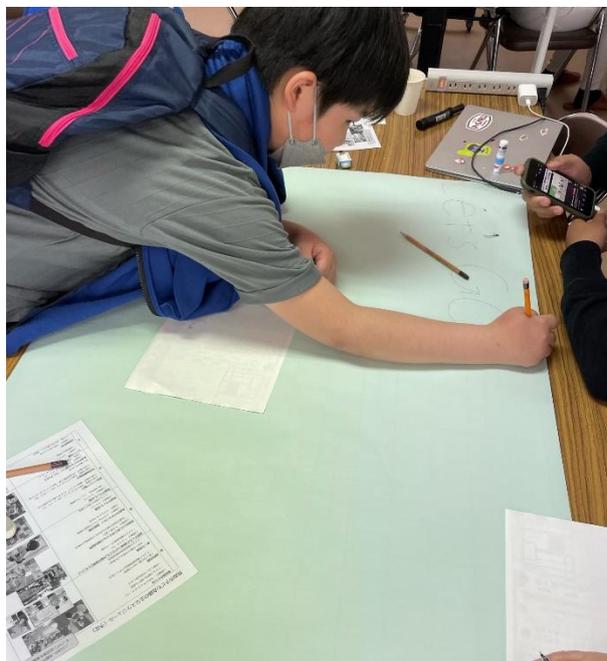
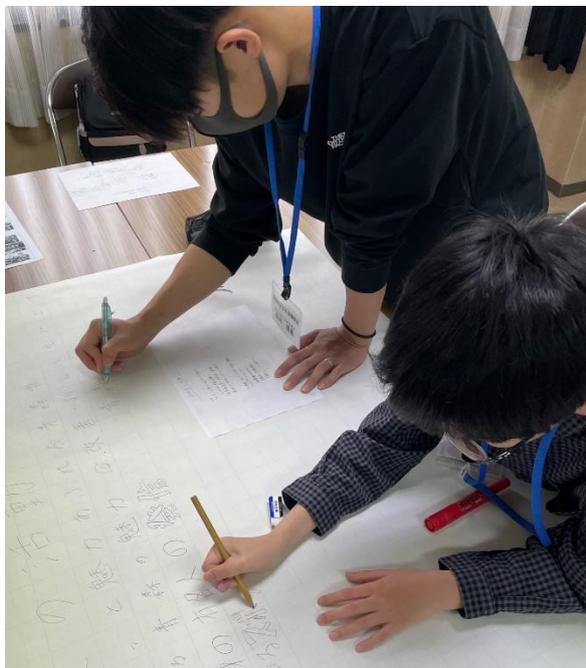
はじめに、特に力を入れて行っていく活動を決めました。「まちづくり」では、仮想のまちづくりとゴミ拾い活動、「学校・教育関連」では、読書の普及やおすすめの本の紹介、「食」ではラーメンとアップルパイを特に取り上げ、他にもおすすめのスポンジや青森市出身の有名人などをショート動画などを使って紹介したいと意見がでました。今年度、新しく動画投稿の経験者も委員になったこともあり、また昨年度よりもレベルアップした活動をしてみたいと思います。

次に活動テーマについて話し合いました。案の中から多数決をとり、「もっと魅力あふれる青森市に」に決まりました。



浪岡子どもの祭典について

最後に、7月2日（日）に参加することに決まった浪岡子どもの祭典で自分たちが運営するブースについて前回出た意見をもとに話し合いました。今回は、的あてとクイズの2つのブースを出すことに決め、残りの時間で、展示する模造紙を作成しました。完成させることはできませんでしたが、下書きはほぼ完成させることが出来たので、次回で完成させたいと思います。



令和5年度 青森市子ども会議 臨時会議その2

- 1 日 時 令和5年6月11日（日）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席者 子ども会議委員10名、子どもサポーター2名、事務局2名
- 4 活動内容 (1) 第1回青森市子ども会議に向けた準備
(2) 浪岡子どもの祭典に向けた準備

5 開催概要

みんなに会うのも3回目の今回は、すぐに第1回子ども会議と浪岡子どもの祭典に向けた準備活動に取り掛かりました。今回の会議では、新しく入った委員が中心となって活動を進めました。

第1回青森市子ども会議に向けた準備

今日参加できない委員にも事前にLINEで聞き取りをしていた意見も合わせて、第1回会議の役割を決めました。基本的に、被らない限りは立候補した役割のままで決定しましたが、司会だけ被ってしまったので、今回は経験のない小学生委員が務めることになりました。これまでは中高生委員がやっていたので、小学生委員が司会というのは珍しい試みです。第1回会議が楽しみです。

役割を決めた後、今年度の活動計画などの発表原稿や発表スライドを見直すチームと、子ども会議公式Instagramへの投稿内容を考えるチームにわかれて作業しました。



発表原稿チームでは、新しく入った中学生委員が中心となってみんなで発表原稿を読みながら、分かりづらい部分の言い回しを考えたり、読めなかった漢字にふりがなをふったり、新しくセリフを増やしたりなど、順調に校正を進めました。最後に今年度の抱負について考え、「輝かせたい」や「自慢できる青森市にするため」などキーワードになるような言葉は出ましたが、納得のいく抱負にまとめられなかったため、後でみんなで考えることにしました。

発表スライドチームも新しく入った小学生委員が中心となり、パソコンを実際に操作しながら修正しました。絵文字を追加したり、イラストの大きさや色を変えたりして、少しでも見やすいように工夫しました。発表スライドチームでも今年度の抱負について少し考えましたが、「楽しく活動したい」や「発信をがんばりたい」という意気込みが多く出ました。

子ども会議公式 Instagram への投稿チームは、新しく入った高校生委員やサポーターが中心となって投稿内容を考えました。文章は、見た人が親しみを持ちやすいように絵文字を多くしたり、呼びかけるような言葉を使ったりしたほか、検索でヒットするようにハッシュタグを多く考えました。



投稿する画像については、どんな写真が良いかアイデアを出し合い、後日高校生委員が作成します。本番の 1 週間前には投稿できるように作業を頑張ります。

最後に、各チームの作業がひと段落したため、みんなで今年度の抱負について考えました。高校生委員が考えてくれた「より良い青森市にするため、かくれた魅力を輝かせよう」をベースに、ほかの委員からでた「自慢できる青森市」や「自分たちの手で」などの言葉を組み合わせ、「みんなが自慢できる青森市にするため、かくれた魅力を自分たちの手で輝かせよう！」に決まりました。

浪岡子どもの祭典に向けた準備

最後に、前回の会議で手がけた「青森市子ども会議について」「今年度の活動について」「子どもの権利について」の 3 つの模造紙についてペン入れ作業等を進めました。

この模造紙は、7 月 2 日の浪岡子どもの祭典で青森市子ども会議が出店するブースの展示物になるので、目を引くような字体にしたり、カラフルに色を塗ったりして、ほぼ完成させることができました。最後の 1 枚は、子ども会議公式 Instagram の QR コードを貼って、それに合わせてイラストをペン入れして完成します。



次回の第 1 回会議では、初めて会う西市長に今年度の活動予定や抱負などを発表します。事前にリハーサルをしてしっかりと本番に備えたいと思います。

令和5年度 第1回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和5年6月25日（日）12時00分～15時00分
- 2 場 所 青森市役所本庁舎 1階サードプレイス・3階会議室
- 3 出席者 子ども会議委員18名、子どもサポーター3名、事務局4名
- 4 活動内容
 - (1) 市長報告リハーサル
 - (2) 市長報告
 - 1 開会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 自己紹介
 - 4 令和5年度青森市子ども会議の活動について
 - 5 市長から激励の言葉
 - 6 写真撮影
 - 7 閉会
 - (3) 浪岡子どもの祭典に向けた準備

5 開催概要

ついに市長へ今年度の活動計画を発表する日になりました。これから今年度の活動が本格的に始まります。

市長報告リハーサル

最後の打ち合わせを行い、役割や流れを確認し自分の発表部分を練習してから、実際に会場へ移動して通しの練習をしました。司会は新しく入った小学生委員が務め、緊張しているからか早口になってしまうので、ゆっくり話すことを心掛けて本番に挑みました。

開会

司会の開会のあいさつにより、第1回青森市子ども会議が始まりました。堂々とした大きな声で進行を務めました。



市長あいさつ

こんにちは。青森市長の西秀記です。令和5年度、私にとっても、皆さんにとっても初めての子ども会議ということで、こうしてお会いできたことをうれしく思います。

新たな委員の皆さんも、これまで参加されていた委員の皆さんも、それぞれお互いの意見を大事にしながら、楽しく話し合い、皆さんらしい子ども会議を一体となって作りあげていくことを期待しています。

今年度、皆さんがどのように活動していくのか、これから発表していただけることを、とても楽しみにしています。どうぞよろしくお願いします。

自己紹介

今年度一緒に活動していく委員及びサポーターが、青森市の好きなおとこやこれから子ども会議でやりたいことなど一言を添えて自己紹介しました。

令和5年度青森市子ども会議の活動について

今年度の活動予定について、市長に向けて委員の代表6名による発表がありました。

<発表の概要>

令和5年度の青森市子ども会議は、小学生8名・中学生12名、高校生5名の委員25名と、サポーター9名の合計34名のメンバーでスタートしました。

「もっと魅力あふれる青森市に!」のテーマのもと、今年度は「もともとある魅力を普及するグループ」と「魅力を改善・新しく作りだすグループ」の2つに分かれて活動を進めていく予定です。「私たちが知っている青森市の魅力をたくさんの人に伝えたい」「そして私たちも知らない青森市の魅力を見つけない」「もっと魅力のある青森市をつくる手伝いをしたい」という思いからテーマを決めました。

1つ目の「もともとある魅力を普及するグループ」では、子ども会議公式 Instagram を活用して、これまで子ども会議で紹介していなかった「青森市の有名なものやスポット」のほかに、「青森市の食」や「子どもの権利」などを短い動画でPRしたいと考えています。また、他都市との交流などの機会を通じて、市外の人にも青森市の魅力が伝わるよう、PRを頑張ります。



2つ目の「魅力を改善・作りだすグループ」では、子どもの目線で「仮想青森市」のまちづくりについて話し合うことで、新しい青森市の魅力に気づいたり、読書率の向上やごみの減少に向けた活動を行うほか、浪岡の「子どもの祭典」や「青森ねぶた祭」などのイベントにおいて、子どもの権利をPRすることで、より魅力あふれる青森市をつくる手伝いをしたいと思います。全体の活動としては、

全国の子ども関係団体が参加する「子どもの権利条約フォーラム」へ昨年度に引き続き参加するほか、子ども会議が主催するトークイベントにおいては、自分たちの手で子どもの権利や子ども会議についてPR活動を行います。

そして、青森市子どもの権利の日である11月20日にちなみ、一大イベントである「青森市子ども会議フォーラム」を開催し、今年の活動を通して気づいた疑問や子ども会議委員からの提案を青森市へ行い、3月には1年間の活動を市長に報告する「活動報告会」を行います。

今年度の子ども会議の抱負は「みんなが自慢できる青森市にするため、かくれた魅力を自分たちの手で輝かせよう!」です。学校・学年も様々ですが、新しいメンバーと一緒に協力しながらがんばりますので、よろしくお願いいたします。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。



市長から激励の言葉

とても良い発表をありがとうございました。今の発表の中でもありましたが、青森市の歴史や文化を学ぶことはすごく重要なことです。過去にどんな歴史があったのか、青森市の独特な文化としてどんなものがあるのかを1人1人が知ること、観光資源として上手に活用できたり、食べ物でも優れたものがいっぱいあることに気づけます。

私は今まで「青森市って良いでしょ」と自慢できる気持ちを持つことに「シビックプライド」という言葉を使ってきました。直訳すると“市民の誇り”となりますが、これは単に人から与えられるものではなく、今回のように皆さんが実際に活動して「青森市の魅力ってなんだろう」と探し出して磨き上げていくことで、誇らしい気持ちに繋がっていくものです。自分が動くことでシビックプライドはどんどんどんどん大きくなりますので、みなさんがより大きなシビックプライドを持っていけるようにこれからも活発な活動をしてください。

みなさんだけでなく大人も含めた青森市民が青森市の魅力にもっと気づき、このまちをもっともっと好きになっていけるように、私も青森市長として取り組んでいきたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。



写真撮影・閉会

最後にみんなで市長と一緒に写真撮影をし、閉会となりました。



浪岡子どもの祭典に向けた準備

準備するものがたくさんあったので、グループに分かれて作業を進めました。

的あての的を作るグループでは、それぞれが思う「けんりしんがいくん」を作ったり、模造紙グループでは色鉛筆で最後の仕上げをしたり、クイズグループでは10問近い問題を考えたり、チラシデザイングループでは見る人の心が惹かれるような言葉やデザインを考えたり、Instagramグループでは投稿文、タグ、写真を考えたりと、それぞれのグループが子どもの祭典に向けて最後の追い上げを頑張りました。

当日は、ゲームなどを通して子どもの権利を知ってもらい、なによりもたくさんのお子どもたちに楽しんでもらえるように頑張りたいと思います。

令和5年度 青森市子ども会議 in 第38回子どもの祭典

- 1 日 時 令和5年7月2日（日）7時30分～15時30分
- 2 場 所 浪岡総合運動公園
- 3 出席者 子ども会議委員13名、子どもサポーター4名、事務局6名
- 4 活動内容 子どもの権利等に関する出張普及啓発活動
- 5 開催概要

新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度から中止になっていた「子どもの祭典」が3年ぶりに開催されることに伴い、青森市子ども会議でもブースを出展しました。ブースでは、「子どもの権利に関する出張普及啓発活動」として、ゲームを通じて子どもの権利等の啓発を行いました。

<今年のブース内容>

①的あて ②クイズラリー ③クリアポーチデコレーション

事前準備

9時前に会場である浪岡総合運動公園に到着し、ブース設営を行いました。ポスターや横断幕の取り付け、テーブルやイスの運搬・配置など、みんなで協力しながら準備しました。設営が終わり、最後に各ブースの担当や役割などを確認し、イベントの開始に備えました。

本番（ブースの運営）

開会式では浪岡中学校の吹奏楽部の子どもたちによる演奏や、西市長からのあいさつがあり、入り口の大きなアーチにふさわしいにぎやかなスタートになりました。

このほか、本部前広場では午前中いっぱい手踊り、一輪車、ダンス、よさこいなどの催しがあり、来場者みんなを楽しませていました。



<受付・クイズラリー>

いざイベントが始まると、大型迷路や巨大遊具に子どもたちが行列を作っており、子ども会議のブースに来てくれる子が少なかったため、受付担当の委員は「クイズラリー楽しいよ」や「景品もあるよ」など大きな声で勧誘をしたり、子どもの権利や子ども会議の配布物品を配ったりしてブースへ来てくれるよう声がけを頑張りました。勧誘のおかげもあってか、少しずつ来てくれる人が増え、午後には多くの方が来てくれました。



イベント開始時は、クイズが貼ってある机を子ども会議のブースから少し離れたところに設置していましたが、実際に運営していく中で、問題を探すのに時間がかかることやクイズのヒントである掲示物がブース内にあり、問題とヒントの行き来が

不便に感じたので、子ども会議のブース周りに設置し直し、スムーズにクイズに回答できるようにしました。

景品として、全問正解した人には、歴代の子ども会議Tシャツか昨年度作成したトートバックを、参加賞として、正解数に関係なく全員に、飴、缶バッジやキーホルダーなどの子どもの権利普及啓発グッズのどれかをあげることにしました。小学生や中学生にはヒントなしでは難しいクイズが多かったので、一緒に来ている保護者や友達と協力したり、クイズラリー担当の小学生委員からヒントをもらったりして、全問正解を目指して頑張っていました。全問正解したのは、参加してくれた人のうち 10%くらいしかいませんでした。クイズを作成した委員はもっと全問正解者が出ると考えていたので、驚いていました。



<的あて>

1人3回、トイレットペーパーの芯や段ボールでできた弾を飛ばして、テーブルに並べたペットボトルの的を倒し、倒した数に応じて景品をあげました。また、クイズラリーに参加した子には、的あての玉の数が3個から5個に増えるという特典も用意しました。

的あては倒した個数でランキングをつくり、1位を更新した子には歴代の子ども会議Tシャツか昨年度作成したトートバックを、それ以外の子には飴、缶バッジやキーホルダーなどの子どもの権利普及啓発グッズのどれかをあげました。最終的にランキング1位だったのは、5つの的を倒せた1人だけで、2位以下は同率者が多くいました。

風で倒れないように的のペットボトルには少量の水を入れたので、当たっても倒せなかった子もいたり、1つの弾で2つ倒せたのは多くの参加者の中で1人だけだったり、なかなか難易度が高い的あてになりました。

小さい子から中学生まで幅広い年代に楽しんでもらえ、2回目からは景品はもらえなくても、何度も的あてをしに来たり、終了時間ギリギリでも的あてをしに来てくれる子がいるほど盛り上がっていました。



<クリアポーチデコレーション>

クリアポーチに好きに絵を描いて自分だけのクリアポーチを作ってもらいました。自分でデコレーションしたクリアポーチの中に、定規やシャープペンシルなどの文房具セットと子どもの権利に関するチラシを入れて渡しました。

女の子や小さい子どもに人気があり、みんな夢中になってデコレーションを行っていました。



子ども会議ブースの運営を行いつつ交代で休憩に入って、他のブースも楽しみ子どもの祭典を満喫しました。3年ぶりの開催ということで、初めて参加する委員が多く、準備等に時間がかかってしまいましたが、無事に子どもの権利に関する出張普及啓発活動を行い、参加者にも楽しく子どもの権利のこともなぞを知ってもらうことができたと思います。



<アンケート>

また、並んでいる子やクイズラリーに参加した子などにアンケートに回答してもらいましたが、一番良かったのが「自分らしく過ごしている？」という間に関して、全員が「はい」と回答したことでした。

青森市子ども会議をどう思う？	1位 むずかしそう 2位 おもしろそう・たのしそう 3位 入ってみたい
子どもの権利相談センターを知っている？	1位 知らない 2位 知っている・名前は聞いたことがある 3位 このイベントで知った
あなたは今、自分らしく過ごせている？	1位 はい
あなたの年代は？	1位 小学生 2位 中学生 3位 大人
おもしろかった・おもしろそうなコーナーは？	1位 クイズラリー 2位 クリアポーチデコレーション 3位 的あて
あなたは4つの子どもの権利を…	1位 このイベントで知った・名前は知っている 2位 知らない

今回は、夏休み中の活動に向けて計画をたてるほか、青森ねぶた祭での子どもの権利普及啓発活動の準備も行います。

令和5年度 第2回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和5年7月22日（土）9時00分～12時00分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席者 子ども会議委員11名、子どもサポーター2名、事務局3名
- 4 活動内容 夏休みの活動について
- 5 開催概要

本格的に活動していくにあたり、グループに分かれて夏休みの活動の計画を立てました。

夏休みの活動について

<もともとある魅力を普及するグループ>

グループ名は、“青森の推しを発信し隊”を略して「オン隊」に仮決定しました。今日は3人しか集まらなかったため、次回のメンバーが集まったときにグループ名を決定します。

今後の活動としては、グルメでは、昔の子ども会議でも取り上げた“海道そば”を、次は青森市子ども会議の公式 Instagram で発信したい、特産品であるりんごの中でもケーキやアップルパイなどのスイーツに合う品種を見つけたい、青森のソウルフードである棒パンや八甲田牛、そのほかトマトやとうもろこしなどの特産品についても発信したい、という意見があがったので、夏休み中に計画的に実施する予定です。

スポットでは、子ども会議が考える浅虫のお手軽散策コースとして、足湯を満喫したり、温泉卵を作ったりカフェを巡るコースを考えたり、アスパムの展望台やお土産屋さんの紹介、有名な建築家が手掛けたACAC（国際芸術センター）を発信したい、という案がでました。

メンバーそれぞれで発信したい青森市の魅力は異なるので、次回集まるメンバーのアイデアも取り入れて、今年度の活動計画を立てていきます。



<魅力を改善・新しくつくるグループ>

グループ名は、「改善する」の英単語“improve”を使いたいという意見が出たので、“Improve Aomori City by children（子どもたちで青森市をよくする）”から「Improve A.B.C.」に決めました。

夏休み中にやりたいこととしては、ポイ捨てが多いことから「ごみがない青森市」「海がキレイな青森市」にするため合浦公園でゴミ拾いを行うこととしました。また、あわせてごみについての知識を深めるために、青森市の清掃工場を見学することにしました。

また、読書率の向上のため、夏休み中に1人1冊おすすめの本を見つけ、それをInstagramに投稿し、読書を呼びかけたいと思います。さらに、市内の図書館にお邪魔し、利用者数の変化や人気の高い本のジャンルなどを調査することにしました。

最後に青森市の改善点を探すため、悪いところをみんなでたくさん出したので、それらを改善した「わたしたちの考える理想の青森市」について考える予定です。



また、事務局から他都市との交流会が松本市に決まったことを教えてもらい、みんなでどんな交流をしたいか話し合いました。子どもの権利に関するクイズを出し合えば楽しいのではないか、という意見があり、オンライン交流会では自分たちが考えたクイズを出し合っ、楽しく交流したいです。

最後に、青森ねぶた祭での子どもの権利普及啓発活動が8月2日に決まったことの説明を受け、会議は終了しました。

令和5年度 第3回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和5年7月30日（日）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター1階 研修室
- 3 出席者 会場参加：子ども会議委員12名、子どもサポーター3名、事務局2名
オンライン参加：子ども会議委員1名
- 4 活動内容 夏休みの活動について
- 5 開催概要

前回に引き続きグループに分かれて、より具体的に夏休みの活動計画をたてました。

夏休みの活動について

<青森の推しを発信し隊（オン隊）>

まず、参加可能な委員が多い日程から、8月16日に浅虫での散策を、19日に食に関する活動をすることに決めました。

浅虫の散策では、青森駅から青い森鉄道に乗って浅虫温泉駅に向かい、子ども会議委員が考えた散策コースを満喫することにしました。浅虫は温泉街なので、だれでも気軽に楽しめる足湯があったり、温泉卵を作ることができるスポットがあったり、少し歩けば海に行けたりと、とても魅力あふれる地域なので、今年度の活動で浅虫の魅力をより広める予定です。広くいろんな人たちに楽しんでもらうために、低予算で楽しめるコースをみんなで作ります。

また、19日に行う食に関する活動では、“海道そば”を実際に自分たちで作って食べる体験をする、アップルパイに合うりんごの品種の食べ比べをする、袋ラーメンに合うトッピングを見つける、の3つに取り組みます。

袋ラーメンはしょうゆ味で統一し、トッピングはりんご、八戸せんべい、ビターチョコレートとココア、レモンとパクチー、もやし、もち、角煮、キムチとチーズ、ツナ、アボカド、天かす、豆腐、インスタントコーヒー、よっちゃんいか、わさびのほかに浅虫散策で面白いトッピングが見つければ追加する予定です。

ほかにも生クリーム、練乳、アイス、たこ焼き、紅ショウガ、セロリ、ほたて、しじみ、豆乳などの意見が出ましたが、手軽に購入できなかったり、試したいという委員がいなかったりでトッピングから落選しました。

8月27日には、ACAC（国際芸術センター）で「見えない建築ツアー」に参加して、その後、憩いの牧場で「身近なものを使って棒パンチャレンジ」を行います。棒パンは、最近テレビで見かけることが増えてきましたが、青森市独自の食文化であることを青森市の子どもたちにもあまり知られておらず、また青森市以外の人にはあまり棒パンが知られていないので、自分たちで棒パンの楽しさや美味しさをPRします。



<Improve Aomori City by children (Improve A. B. C.) >

青森市清掃工場の見学については、委員が直接電話して申し込むことにし、日程はみんなの参加率が高かった8月16、19、24日の中で施設側の受け入れが可能な日にすることにしました。青森市清掃工場を見学し、ごみの処理やごみの分別などの知識を深めたいと思います。また、合浦公園で拾ったごみを青森市清掃工場へ直接持ち込み、どのようにごみが受け入れられるのかも体験します。

このほか「わたしたちの考える理想の青森市」について、青森市で困っていることや問題点を洗い出して、どう改善できるのかなどの案を出し合いました。次回会議では、実際に地図など書き込みながら「わたしたちの考える理想の青森市」について話し合います。



令和5年度 第4回青森市子ども会議 (青森ねぶた祭における子どもの権利普及啓発活動)

- 1 日 時 令和5年8月2日(水) 17時00分～20時00分
- 2 集合場所 青森市役所 駅前庁舎5階 インナーパーク
- 3 出席者 子ども会議委員11名、子どもサポーター4名、事務局4名
- 4 活動内容 青森ねぶた祭における子どもの権利普及啓発活動
- 5 開催概要

昨年度に引き続き、ねぶた祭1日目に参加し、子どもの権利普及啓発活動を行いました。

集合

運行前の準備として、自分たちでデザインしたTシャツを着用し、昨年度も使用した手作りのうちわや提灯のどれを持つかを決めたり、鈴や光るブレスレットをつけたりしました。時間になったので、啓発するための配布物品を持ち、市役所ねぶたの待機場所へと向かいました。今年度の配布物品は、①子どもの権利と子ども会議のチラシ、②不織布マスク、③子どもの権利相談センターの携帯カード入りポケットティッシュ、④ねぶたの鈴です。

子どもの権利普及啓発活動(青森ねぶた祭本番)

今年のねぶた祭も昨年同様吹き流し方式のスタートで、市役所ねぶたは2番目に運行がスタートしました。柳町通りにスタンバイしていると開始時間の19時に花火があがり、ねぶた祭が始まりました。

子どもの権利に関するのぼり旗を先頭に、啓発物品を配りながら「ラッセラー」の掛け声とともに子どもの権利の普及啓発活動を行いました。配布に夢中になってしまい運行の流れに遅れてしまうなど、スピードに気を配りながら配布するのはとても大変でしたが、観覧客が喜んで受け取ってくれたので、とても楽しい活動になりました。みんなが積極的に配ってくれたため、早めに配り終わり、残りうちわを振って子どもの権利の普及啓発を行いながら、「ラッセラッセラッセラー」と声を出してねぶた祭を楽しみました。

最後に集合写真を撮って終了しました。



令和5年度 第5回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和5年8月14日（月）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席者 子ども会議委員8名、子どもサポーター2名、事務局3名
- 4 活動内容 (1) 子どもの権利に関する講義
(2) グループ活動

5 開催概要

子どもの権利に関する講義を受けた後、グループに分かれそれぞれの活動について話し合いました。

子どもの権利に関する講義

子どもの権利擁護委員の沼田徹先生による子どもの権利に関する講義では、“権利とは？”から始まり、“権利と人権の違い”や“子どもの権利の必要性”などを、具体例を用いてわかりやすく説明していただきました。

継続している子ども会議委員からは、「子どもの権利について復習できた」「子ども会議で子どもの権利の普及啓発活動を行ってきたが、それがとても大切で良い活動であることを再認識できた」、今年新しく入った委員からは、「少し難しいところもあったけど、人権について理解することができた」という感想が挙がりました。



グループ活動

<オシ隊>

浅虫散策コースについてみんなで情報共有をしたあと、場面ごとに分かれてカメラワークやコメントなどについて考えました

青森駅（自由通路）→浅虫温泉駅、浅虫温泉駅→駅の足湯、駅の足湯→（あさむし温泉プリン金治郎経由）飲泉所と温泉たまご場、飲泉所と温泉たまご場→ゆ～さ浅虫の4つの場面に分かれて、それぞれPRしたい内容、コメントやカメラワークなどを考えました。

足湯は、料金はかかるのか、おすすめの服装はどんなものかを考えたり、飲泉所と温泉たまご場はサポーターと一緒に「温泉たまごを作るために必要なものは何か」を考えました。温泉たまごを作るのにかかる時間を調べると15分で柔らかめ、20分で固めの温泉たまごができ、もし20分以上やっ

でもそれ以上固くなることはないらしく、不思議に思ったので実際に食べ比べをすることにしました。

<Improve A. B. C. >

まず、理想の青森市について話し合いました。青森市の拡大地図を使用しながら、駅や空港の位置から交通の便を確認したり、商業施設の位置を把握したりしました。それから、前回出た意見をもとに、「サイゼリヤを作るならどこに作る？」「ディズニーはどこに作る？」「青森市に欲しいチェーン店は？」など、たくさん意見を出し合い、候補を考えました。しかし、「青森市にディズニーがあっても県外の人からは遠いため、意味がないのではないか」「何を作るにしても広い土地が必要で、ただでさえ狭いのに青森市がもっと狭くなっちゃうのではないか」などの意見が出て、話し合いに行き詰まってしまったため、仮の案として地図に書き込むことにしました。

次に、前回進めた本の紹介の活動の続きを行いました。動画で紹介したいという委員は、どのような紹介動画にするか絵コンテ等を考え、まだおすすめの本の準備が出来ていない委員はその続きを行いました。次回以降の会議で、準備が整った人から動画を撮影していきたいと思います。



令和5年度 第6回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和5年8月16日（水）9時30分～15時00分
- 2 集合場所 青森市役所 駅前庁舎
- 3 出席者 子ども会議委員12名、子どもサポーター1名、事務局4名
- 4 活動内容 (1) グループ活動
(2) 青森市清掃工場の施設見学

5 開催概要

午前中はグループに分かれて活動を行い、午後は全員で青森市清掃工場の見学に行きました。

グループ活動

<オシ隊>

青森駅に集合し、自由通路の撮影後、実際に青い森鉄道に乗って浅虫温泉駅へ向かいました。浅虫温泉駅の中にある観光案内所でタオルの貸し出し料金について確認を取り、駅前にある足湯へ向かいました。駅前の足湯に入りながら目の前にある小さい日本庭園のような風景を楽しみ、トンボに風流を感じたり足湯の温度が場所によって違うことを発見しました。結構人気で浸かりに来ている人が多かったです。

続いて飲泉所と温泉たまご場へ向かい、温泉たまごを15分と20分でゆで時間を分けて食べたり、飲泉したりしました。温泉たまご場はとても熱く、小中学生だけでやるのは少し難しく、高校生以上だと安心してできそうだと思います。また、飲泉は飲んでみたいと言った委員だけ飲みましたが、温泉の香りが強く熱かったです。冷まして飲んでみると、ゆで卵のような味を感じました。

お昼は2組に分かれ、浅虫温泉駅周辺にある宿屋つばきの『スパイシーカレー』と喫茶兼ギャラリーもある『浅虫コリドー』で食事をし、最後にゆ～さ浅虫に行き、キッズスペースの写真を撮り、海を見ながらジェラートやアイスクリームを食べました。

浅虫を満喫できるコースをみんなに広められるよう、マップを作成したいと思います。



<Improve A. B. C. >

「ごみのない綺麗な青森市」にするための活動として、合浦公園でゴミ拾いを行いました。球場側の入口から海側へ進み、西側の遊具や動物がいるところを通って元の場所へ戻るコースで行うことにしました。

実際にごみ拾いを開始すると、たばこの吸い殻や、夏休みということもあってか、花火のごみなどが落ちていました。委員からは、「合浦公園は花火が禁止のはずなのに」という声も上がりました。公園内には想像と違いごみが多く落ちておらず、ゴミ袋いっぱいとはなりませんでしたが、各自集めたごみを燃えるごみとプラスチックで分別してゴミ拾い活動は終了しました。今後の子ども会議で使うため、まつぼっくりも集め、まつぼっくりとごみあわせて約1kgになりました。

お昼は2組に分かれ、合浦公園の近くでテイクアウトしたお弁当を食べたり、合浦公園の近くにある『ラーメンさんぱち』に行ってお弁当を食べたりしました。



青森市清掃工場の施設見学

Improve A. B. C. グループのうち3名が、午前中合浦公園で集めたごみの持ち込みをするため、先に出発し、残りのメンバーはオン隊と合流してから青森市清掃工場へ向かいました。

ごみの持ち込みでは、持込前とプラットホームでごみを出した後の2回、車ごと計量を行い、その差で持ち込んだ量を確認します。

工場の施設見学では、まず、係の人から青森市のごみ事情について説明を受け、ビデオを見て、ごみについての理解を深めました。青森県のごみの量は全国で3番目に多く、リサイクル率も14.4%で全国41位と低いことを知りました。ごみを減らしリサイクル率を上げるために自分たちで何ができるか考える必要があると思いました。

次に工場内の見学を行い、最後に発電体験を行いました。30秒足踏みを行い、どれだけ発電できるかの体験で、係員の「足踏みよりたくさんジャンプをした



方が良い」というアドバイスを受けて実行した委員が 3.6 mW を記録し、参加した委員の中で 1 番でした。青森市清掃工場では、4000 kW 以上の発電が行われており、これは委員の最高記録の約 10 億倍以上の電力で、とても多くて驚きました。とても疲れましたが、実際に発電体験をすることができて楽しかったです。



以上で、施設見学は終了し、案内していただいた係員に感謝を伝え、今回の子ども会議は終了しました。今日の活動を振り返り、青森市へ提案できることを考えたり、Instagram を使って情報発信を行ったりしたいと思います。

令和5年度 第7回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和5年8月19日（土）9時30分～13時30分
- 2 場 所 青森市中央市民センター2階 料理室
- 3 出席者 子ども会議委員7名、事務局2名
- 4 活動内容 グループ活動
- 5 開催概要

グループ活動

<オシ隊>

食に関する活動として、棒パンの生地づくり、アップルパイに合うりんごの品種比べ、ラーメンのトッピング食べ比べ、海道そばづくりの4つを主軸に進めました。

まず、最初につくるアップルパイの形状やラーメンのトッピング方法などについて決め、棒パンの生地づくりに取りかかりました。生地を発酵している最中にアップルパイに使うりんごの皮むきをしましたが、時間がなくなったのであわててラーメンをつくりました。

レシピ通りに材料を入れるのを忘れてたり、トッピングやつくっていないものがあったり、試食できないものがあったり、時間が足りない中で取り組むことの難しさを感じました。

計画時点では「できる」「食べられる」と思っても、実際にはできなかつたり、時間配分がうまくいかず反省する点が多かったので、今後の活動では計画性と実行性を考えて活動していきたいと思います。

もし、今後の活動で余裕があれば再度チャレンジしたいです。



品 種	極早生の品種		晩成の品種（冷蔵品）
	恋空	メルシー	春明 21
りんごの 写真			
パイの形 (イメージ)			

ラーメンのトッピング計画

汁に溶かす	のせるだけ	煮る	炒める
コーヒー	バター、わさび、天かす、キムチ、 チーズ、角煮、梅、アボカド	せんべい（汁）、 とうふ	もやし
溶かしてのせる		煮てからのつける	煮るか焼く
チョコレート・ココア、レモン・レモン汁、 りんご・すりりんご		カットよっちゃんいか	もち

<Improve A. B. C. >

まず、前回の青森市清掃工場の見学を振り返りました。見学した感想やごみを減らすため・リサイクル率を上げるために自分たちでできることについて考え、発表しあいました。

感想	自分たちでできること
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみクレーンが約6tととても大きくて、免許が必要だとわかった。 ・足踏みをして発電するのが大変で、あまり発電出来なかった。 ・たくさんあるごみが、ほとんどこの工場処理され、その技術に驚いた。 ・電池が爆発するという事にびっくりした。 ・処理していくうちにごみが分かれていくという技術が不思議だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シャンプーなどを詰替えにする。 ・リサイクルショップやメルカリに出品する。 ・ご飯を残さず食べる。 ・めんどくさがらずに分別する。 ・必要なものしか買わない。 ・リサイクルできるものを覚える。(ごみの分別の仕方など)

次に、まちづくりについて考えました。合浦公園でゴミ拾い活動をしたときを振り返り、タバコの吸殻が多かったので、合浦公園の近辺に喫煙所を設ければよいのではないかという意見や、新しいテーマパークを作るのであれば札幌の“白い恋人テーマパーク”のような名産品のテーマパークを作るのがよいのではないかという意見が出ました。新しいテーマパークとして、青森はりんごが有名なので“アップルテーマパーク”を、観光客も交通手段に困らないように新青森駅近くに建設すると人も多く集まってくるのではないか、と考えました。そのほか、浪岡に住む委員からは、浪岡にはゲームセンターがないという意見も出ました。子どもも楽しく暮らせる魅力あふれる青森市を考えるのはとても難しいです。少しずつみんなで意見を出し合いたいと思います。



お昼になったので、中央市民センターの近くにある『原食堂』に行きました。徒歩3分の距離にあり、次から次へとお客さんが入ってくる、昔ながらの人気の食堂でした。

最後に、本の紹介の活動の続きを行いました。画像と文章で紹介する委員は、Instagramへの投稿案を考え、無事に完成できたので、次回紹介したい本を持参して、画像の準備ができ次第、投稿したいと思います。

令和5年度 第8回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和5年8月27日（日）9時50分～13時30分
- 2 場 所 国際芸術センター青森（ACAC）、八甲田憩いの牧場
- 3 出席者 子ども会議委員8名、子どもサポーター3名、事務局3名
- 4 活動内容 (1) 国際芸術センター青森の見学
(2) 棒パン体験

5 開催概要

今回も各グループに分かれて活動を行う予定でしたが、みんなで活動したいという意見から Improve A. B. C. グループが推し隊の活動に参加することになり、全員で同じ活動をしました。

国際芸術センター（ACAC）の見学

全員集合し、マイクロバスで国際芸術センターに向かいました。ACAC は、十和田市民図書館の設計も手掛けた有名な建築士の安藤忠雄さんが造った、コンクリート造りで黒い鉄板のメッキが特徴的な建物です。

今回は、毎月第4日曜日に開催している「見えない建築ツアー」に参加し、ガイドさんから ACAC が造られた経緯や野外ステージ、水のテラスなどの説明を受けながら野外彫刻を散策しました。

散策の中で、新町商店街のレリーフも造った鈴木正治さんの作品である「八甲田山」に「GODIVA」と刻まれていることに小学生委員が気づき、みんなでチョコレートの企業名がなぜ刻まれているのか不思議に思っていると、ガイドさんから企業名の由来である「ゴダイヴァ夫人の伝説」が元になって刻まれていることを教えてもらいました。そんな伝説があることを知らなかった委員も多く、説明を聞いて驚きました。

ACAC は建物の屋上に草や畑があったり、野外作品が木々にまぎれていたり道路に交じっていたり、石のような作品があったりなど、自然と一体になるデザインが数多くありました。すべての野外彫刻を見ることはできませんでしたが、最後の質問コーナーで、水のテラスの水は森にある調整池から大学分と一緒にろ過された浄水が流れてきていることや、ACAC の総建築費について、黒い鉄板は最近の安藤建築には使われていない技法により亜鉛メッキが施され波紋のような模様に見えること、展示棟には冷房設備がなく雪を活用した冷房システムがあることなどを知りました。

また、「エナジー・イン・ルーラル」という展示も行われていたので、あわせて見学しました。水のテラスに大城真さんの「Solar call」という、ソーラーパネルにより一定の電気がたまるとベルが鳴る作品が展示されていました。これは天候によって音が鳴る間隔が変化し、曇りだと間隔が長く、強い日差しだと短くなり、日没後には沈黙する作品で、その日の天候や日時で変化を楽しめる作品で面白かったです。ツアー中は周りの森の音や虫の音、Solar call のベルの音が何度も聞こえていました。

このほか、展示棟にあった大和田俊さんの「Give me ingredients, I' ll mix it」という作品では、2、3 万年前の石灰岩からつくった炭酸水を実際に飲むことができました。普段購入できる炭酸水に比べると炭酸が弱く、独特な苦みも少なかったので小学生でも一気飲みできるほど飲みやす

かったです。実際に飲むことができる作品があるとは思ってもいなかったのもとても貴重な体験をすることができました。



棒パン体験

ACACの見学を終え、棒パンを焼くために八甲田憩いの牧場に向かいました。

8月16日の合浦公園のごみ拾いで拾った松ぼっくりを着火剤として活用し火起こしにチャレンジしました。火をつけるのが難しく、松ぼっくりから想像以上に煙が出てきて驚きました。うちわで扇いで炭が白くなるまで空気を送りましたが、いつまで扇ぎ続ければ良いのかわかりづらく、火起こしの難しさを感じました。

パン生地は、前回、やわらかめと弾力のある生地の2種類を押し隊のメンバーが作ってくれたので、委員それぞれ食べたい方を選んで自分で焼いて食べました。外側を焦がさずに中まで火が通るように、くるくると回しながら焼きましたが、火に近づけすぎて焦がしてしまう委員がいたり、綺麗な焼き目がつくように器用に竹を遠くしたり角度を調整して丁寧に焼いている委員もいて、それぞれ性格が出て面白かったです。棒パンを初めてやったという委員には経験のある委員がアドバイスしながら、青森市ならではの食文化である棒パンを楽しむことができました。

トッピングは、年代に関わらずマーガリンが一番人気でした。



令和5年度 第9回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和5年9月10日（日）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席者 子ども会議委員9名、子どもサポーター2名、事務局3名
- 4 活動内容 (1) オンライン交流会と子ども会議フォーラムに向けて
(2) 子どもの権利に関する講義

5 開催概要

オンライン交流会と子ども会議フォーラムに向けて

松本市とのオンライン交流会に向けて、①青森市の紹介、②子ども会議の活動発表、③青森市子ども会議フォーラムのチラシデザインを考えるグループの3つに分かれて、それぞれ活動を行いました。

①青森市の紹介を考えるグループでは、それぞれ発表原稿とスライドを見ながら、修正したい部分や松本市に出すクイズについて話し合いました。発表原稿は言い回しなどを少し修正し、クイズでは津軽弁と青森の食に関する問題を出すことにしました。津軽弁では、小学生委員なども普段から使うことがある「すばねあがる」、食に関してはテレビなどでも放映されたことがある「イギリストースト」について問題を出すことにしました。

②子ども会議の活動発表を考えるグループでは、最後のスライドの内容を修正し、この交流会を通じて青森市の魅力に気づいたり、松本市の魅力を教えてもらいたいこと、そして何よりも青森市を盛り上げていきたい、という意気込みを追加しました。また、松本市は海に面していないので、浅虫や合浦などの海のPRも増やしたい、という意見が出ました。

③チラシデザインを考えるグループでは、過去2年分のチラシを参考にしながら考えました。昨年度のチラシは、絵や文字が多く、強調したいことがわかりづらい、パッと見て大事な情報が入ってこないという意見が出たので、一昨年のデザインを元に考えることにしました。例年通り黒板背景にして、必要最低限の情報を入れ込むことを意識しました。サブタイトル等はまだ決まっていないので、次回の会議で決めたいと思います。



子どもの権利に関する講義

子どもの権利擁護委員3名にお越しいただいて、松本市とのオンライン交流会に向けて“意見表明権を行使する”練習として、小学生と中学生に分かれ、「まわりにあった子どもの権利」について、グループワークを行いました。

【小学生グループ（小林擁護委員）】

初めに自己紹介をしてから、宿題で考えてきた「子どもの権利で守られていたこと」や「子どもの権利が守られていないこと」などについて、発表しあいました。

「子どもの権利で守られていたこと」について、5年生の委員から「学校内にフリースクールを作ろう！という意見が通ったことは、意見を表明し参加する権利が守られている」と発表がありました。小林委員から、「その出来事で守られているのはその権利だけかな？」という問いかけにみんなで考え、安心して生きる権利や豊かで健やかに生きる権利も守られていることに気づくことができました。

「子どもの権利が守られていない」と思ったことについては、6年生の委員から「無視される」という意見が出ると、他の委員から「わかる！」と賛同の声があがり、具体的に友達と3人有的时候きに、2人で会話され自分が会話に入れなかったエピソードが出ました。小林先生から、「嫌な経験を言った時に、同じ気持ちを経験したことがある人がいると、自分だけじゃないんだと安心することもできるよね」と気持ちを他の人に言うことで嫌な気持ちが少なくなるということを学びました。無視する側の気持ちも考え、無視をする側も無視をして後ろめたい気持ちがあると思うので、する側とされる側で会話をする機会を作ることが必要ではないかと、両者の立場で考えることができました。



【中学生グループ（沼田擁護委員・関谷擁護委員）】

自己紹介として、学年、名前、今日の朝食べたものを発表してから、自分の周りにあった子どもの権利として「子どもの権利で守られていたこと」、「子どもの権利が守られていないと思ったこと」を発表し合いました。

「子どもの権利で守られていたこと」の中で、学校でのいじめアンケートの話題が出ました。アンケートを取ることで学校側がいじめの実態や現状を知ることによって子どもの権利を守ろうとしている、という意見が出た一方、アンケートに書いたことが周囲の人や学校中に広まってしまうから書けない、だれが書いたか分かるアンケートだから当たり障りのない意見を書いている、などの意見もありました。

いじめアンケートそのものについて話し合いましたが、自分の悩みや周りのことを普段から関わっている学校には教えたくないから、いじめアンケートには書かずに子どものSOSなど普段から関わりのない人に相談したことがある、という意見や、いじめアンケートに書くことで親を呼ばれたり、加害者と被害者の生徒を呼び出して謝る場がつくられたりと、周りの生徒に何があったかが分かられてしまう先生の対応が嫌だからアンケートには書かない、いじめアンケートを取る意味がそもそも分からない、など素直な意見も出ました。アンケートの取り方も学校ごとに様々で、家で親と一緒にやってください、という学校もあれば一人で書いて終わった、という学校もありました。

いじめアンケートで子どもの意見が本当に欲しいのであれば、「悩みに対して学校側で対応して欲

しいか」に5段階の選択肢で回答できる設問を追加したり、名前の記入欄をなくしたり、親の視点での意見が入らないように自分が一人になれる場所で書くように、などの説明があったり、アンケートの回収方法をボックスへの投函にする、などの改善があれば子どもの素直な意見を集められるかもしれない、という意見も出ました。

そのほかに子どもの権利が守られていることとして、「学校生活の中で少数派だった自分の意見が通ったこと」や「先生に親身に話を聞いてもらえて安心したこと」、「学校で暑いことを伝えたら冷房を強くしてくれたこと」、「友達と授業でお互いに意見を出し合ったときに、自分の意見が尊重されていることに気づいたこと」など、学校生活についての意見が多かったです。

逆に子どもの権利が守られてないことでは、「髪ゴムや靴下の色、髪型を細かく指定されていること」、「公園で子どもはボール遊びできないが、大人はゲートボールをやっているし、大人が広く公園で遊んでいるから子どもが遊べないこと」、「寒いから部活でジャンパーを着たら理由も聞かずに怒られ、ジャンパーを脱がされたこと」、「いじめの相談をしたら先生に知らないふりをされそうだったり、先生への対応があからさますぎて周りのみんなにいじめにあっていることを知られてしまったこと」、「学校からの帰り道に友だちに跡をつけられて家の場所を知られたこと」、「クラスで冷やかしたり悪口を言われること」、「先生からの圧を感じる人が多いこと」などの意見が出ました。

子どもの権利が守られていないこととして「学校生活の中で何かを決めるとき、多数決で決めることがとても多い」について、みんなで話し合いました。多数決は民主主義とよく言われるが、民主主義とは違って、少数派の意見が尊重されることはなく、多数派の意見だけで進められてしまいます。そのため、決める物事にもよりますが、多数決ではなくジャンケンやクジで決めたり、お互いの意見を議論する機会があることも大事だということが分かりました。子ども会議でも多数決だけではなくジャンケンやクジでも決めるようにしたいです。

令和5年度 第10回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和5年9月24日（日）10時30分～16時00分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席者 【青森市】子ども会議委員6名、事務局3名
【松本市】まつもと子ども未来委員会16名、事務局3名
- 4 活動内容 (1) オンライン交流会と子ども会議フォーラムに向けて
(2) 松本市とのオンライン交流会
 - 1 開会
 - 2 自己紹介
 - 3 お互いの市を紹介
 - 4 クイズ
 - 5 活動発表・質疑応答
 - 6 感想発表・閉会

5 開催概要

今年度初めての他都市とのオンライン交流会を行いました。

オンライン交流会と子ども会議フォーラムに向けて

初めに、松本市とのオンライン交流会に向けて、役割決めを行いました。青森市の紹介、クイズの出題、活動紹介の役割があり、みんなが積極的に立候補したため、スムーズに決めることができました。司会はサポーターにお願いする予定でしたが、欠席のため事務局が行いました。それぞれ個人で練習し、本番に備えました。

次に、子ども会議フォーラムに向けて、サブタイトル決めと提案質問内容について話し合いました。サブタイトルは、事前に考えてきてもらったアイデアをもとに新しい案も出し、多数決で候補を絞りLINEで全員にアンケートを取って決定することにしました。

提案質問内容については、今年度のこれまでの活動を振り返りながらみんなでたくさんの案を出しました。

松本市とのオンライン交流会

お昼休憩終了後、通して練習を行いました。時間になったので、オンラインに接続し、両市準備が整ったところで、交流会はスタートしました。

開会・自己紹介

司会から交流会の流れなどの説明があった後、自己紹介をしました。学年や名前のほかに、ひとこと「もし〇〇なら～」を発表してもらいました。

青森市では「もしタイムマシンがあったら第二次世界大戦中のドイツに行きたい」や「もし魔法が

使えたら、すぐに登下校ができる瞬間移動の能力を身につけたい」など、松本市では「もし青森市に行ったら、海鮮丼を食べて海に行きたい」や「もし総理大臣になったら子どもが一日中ゲームをできる権利をつくりたい」、「もし魔法が使えたら怖がりやを直してジェットコースターに乗りたい」など、個性あふれる自己紹介となりました。松本市からは「もし青森市に行ったら海に関することをしたい」という意見が多かったのが印象的でした。

お互いの市の紹介

お互いの市の、地理的な話と特産品や観光スポットなど紹介し合いました。違うところも似ているところもたくさんあり、お互いに初めて知ることが多く、とても楽しかったです。

〈青森市〉

青森市は、八甲田山や陸奥湾などの自然に囲まれており、四季折々の景色や温泉、ねぶた祭を楽しめたり、美味しい特産品や観光向けのスポットもあつたりと、とても魅力あふれる市です。有名なりんご、にんにく、ほたてなどの美味しいもののほかに、観光客も楽しめる浅虫水族館やねぶたの家ワ・ラッセなどの施設、18歳までの子どもの権利侵害に関することであれば誰でも相談できる「子どもの権利相談センター」も東北で唯一青森市に設置されています。

青森市で一番おすすめの季節はねぶた祭も参加できる夏です！機会があればぜひ青森の魅力を堪能しにきてください。



〈松本市〉

長野県は、8つの県と隣り合っており、松本市はその長野県の真ん中にあります。松本市は「山の岳都」、「音楽の楽都」、「学びの学都」の「3ガク都」の街です。日本で一番空に近い空港「信州まつもと空港」があり、山のイメージが強い長野県ですが、200～300万年前には広い海がありました。水がとてもきれいなので街の中の水路でニジマスやカワハギを見ることもできます。

有名な食べ物には、そば、味噌、おやきなどがあり、おやきは切り干し大根や野沢菜などが入ったおかず入りの饅頭のようなものです。青森と同じりんごも有名で、「秋映え」「シナノスイート」「シナノゴールド」は「長野県りんご三兄弟」と呼ばれています。伝統工芸品である「松本てまり」や草間彌生さんを初めとする数々の著名人もいます。松本市のことを知ってもらえてとても嬉しいです。



クイズ

次にお互いにクイズを出し合いました。青森市は、子どもの権利のことや青森市のソウルフード、津軽弁についての問題を用意し、松本市は子どもの権利相談室の名前など、松本市に関するクイズを出し、どちらも全問正解者はいませんでした。

クイズで盛り上がり緊張がほぐれたところで、スクリーンショットによる記念撮影を行いました。



活動発表・質疑応答

〈青森市の活動発表〉

今年度の子ども会議では、「もっと魅力あふれる青森市に！」を活動テーマに、もともとある魅力を多くの人に広める「推しを発信し隊」と、魅力をより良くする・新しく作る「Improve Aomori City by children」の2つのグループで活動を進めています。

オシ隊では、「多くの人に広めたいスポット」として ACAC（国際芸術センター）や浅虫地区、「独自の食」として棒パンやおおもり海道そばの魅力を広めるため活動をしています。

Improve A. B. C. では、青森市の「困った」である「低い読書率」や「多いごみの排出量・低いリサイクル率」をより良くするため「おすすめの本の紹介」、「合浦公園でのごみ拾い」や「青森市清掃工場の見学」を行いました。また、私たちが考える「魅力的な青森市」について話し合い、新しい青森市の魅力に気づいたり、魅力を作り出すためのヒントを見つけたりしたいと思います。

また、この交流会を通して「青森市の隠れた魅力を発見したい」と思います。

推しを発信し隊(オシ隊)
公式Instagramを使って**青森市の魅力**を
 **子どもの目線から発信!**

・もっと広めたい有名スポット
→ACAC(国際芸術センター)、浅虫

・青森市独自の食
→棒パン、おおもり海道そば



【somori.kodomokaigi】

Improve Aomori City By Children (Improve A. B. C.)
もっと魅力的な青森市におかって
より良く・つくります!



・青森市の仮想まちづくり罫
・読書の普及
(おすすめの本や場所の紹介)📖
・ごみ拾い等の実施

松本市から質問が出なかったので、発表に対する感想をいただきました。

- ・青森市清掃工場での発電のことで、足踏みでの発電と工場での発電が10億倍も違うことを聞いて驚きました。そんなに違うということを知ることができてよかったです。
- ・青森市の活動テーマを参考にして、これから活動していきたいと思います。

〈松本市の活動発表〉

まつもと子ども未来委員会では、松本市が行っている取組や、地域の課題について学び、話し合い、自分たちの故郷である松本市のまちづくりについて考えており、私たち第9期は小学生15人、中学生12人、高校生8人の合計35人の委員と、大学生5人がサポーターとして参加しています。第9期のスローガンは「より良くした松本を好きになってもらうために」で、自然豊かな環境など、これまでの松本の良さを大切にしつつ、未来に向かって松本をより良くしていくことで、松本を好きになってもらいたいという思いが込められています。

活動では、毎年市への提言を行っており、今年度は、生活の改善、自然の保護、ボランティア、PRについて関心を持ってグループに分かれて学習を進め、自分たちの考えをまとめています。また、市の広報番組に出演して「松本市の子どもの権利」に関する取組や未来委員会の活動のPRを行ったり、市役所の部署からの依頼により活動を行ったりしています。

まつもと子ども未来委員会とは…？



- ◆ 「松本市子どもの権利に関する条例」に基づいて開催
- ◆ 委員：小学5年～高校3年生
学校、地域、年代を越えて活動しています！
- ◆ 松本市の取り組みや、地域の課題を学び、話し合い、松本のまちづくりを自分たちで考えています



市への提言に向けた活動



- ◆ 自分たちが興味を持った事柄について、学習し、自分たちの考えをまとめる

生活の改善

ボランティア

自然の保護

PR

気になったことについて質問をし、活動について詳しく教えてもらいました。

- ・テレビの広報番組での収録は、市の番組で、子どもの権利相談室のことや11月にある提言の時の発表を行った。
- ・松本市で一番大きい課題は、道が狭いことで、城下町なのもあって昔ながらの道が残っていて、狭い道が多く交通事故や自転車の事故がとても多い。

感想発表・閉会

最後に各市から交流会を終えての感想を発表し、閉会となりました。お互いの市の魅力や活動内容について詳しく知ることができて良かったです。

令和5年度 第11回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和5年10月7日（土）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席者 会場参加：子ども会議委員7名、子どもサポーター1名、事務局3名
オンライン参加：子ども会議委員1名
- 4 活動内容 (1) 市民図書館の展示タイトルについて
(2) 子ども会議フォーラムに向けて
(3) 子どもの権利に関するパネル展の展示物の作成

5 開催概要

11月20日の青森市子どもの権利の日にあわせ、展示や子ども会議フォーラムを行うので、それらに向けた準備等を行いました。

市民図書館の展示タイトルについて

昨年に引き続き、11月いっぱい市民図書館6階で子どもの権利に関する展示を行います。そこで、展示タイトルを考え、たくさん出た案の中から多数決を行い、「世界中どこにでも子どもの権利」、「子どもたちの声が届き、安心できる未来へ」、「子どもの声は未来を変える!」、「子どもの権利は子どもを守る」の4つに絞りました。

いつもは多数決ですが、今回はあみだくじで決めることにし、「子どもたちの声が届き、安心できる未来へ」に決定しました。いつもとは違った決定方法をみんな楽しんでいました。

子ども会議フォーラムに向けて

提案の1つとして考えていた「いじめアンケート」について話し合いました。第9回子ども会議で行ったグループワークで、「回答内容の確認や解決のための先生からの呼び出しによって、だれが書いたのかみんなわかってしまう。それが嫌で当たり障りのない回答を書いている」など「いじめアンケートは子どもの権利を守ってくれるものだが、回答方法や解決方法については子どもの権利が守られていないように感じる」という意見が出たことをきっかけに提案することにしました。

どうすればより素直な声を集めることができるのか、質問項目や回収方法、その後の先生の対応について考え、学校で行われるいじめアンケートの質問に追加する形で、子ども会議オリジナルの「いじめに関するアンケート」を作成しました。

子どもの権利に関するパネル展の展示物の作成

駅前スクエアで行われるパネル展で展示する模造紙を作成しました。各グループの今年度の活動についてと子ども会議フォーラムの宣伝用の計3枚を作成しました。完成まではいきませんでした。1時間程度でペン書きまで進めることができたので良かったです。



令和5年度 第12回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和5年10月28日（土）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター1階 視聴覚室
- 3 出席者 子ども会議委員4名、事務局3名
- 4 活動内容 グループ活動
- 5 開催概要

グループに分かれてそれぞれの活動を進めました。

グループ活動

<オシ隊>

前回ペン書きまで終わった活動内容をまとめた模造紙に色を塗り、それぞれの場所で自分たちが思ったことやコメントを追加して、見る人の目を引く工夫をしました。魅力が伝わるコメントを考えるのに苦戦しましたが、自分たちの思いや魅力がより伝わる内容になりました。



次に、松本市とのオンライン交流を振り返って、青森市の魅力だと思ったことや松本市との違いについて話し合い、Instagramへ投稿することにしました。共通点や違いについてまとめ、投稿文やイラストを作成したほか、まつもと子ども未来委員会から多かった「海を楽しみたい」との声を受けて、私たちが考える海の魅力についても発信することにしました。交流会を通して発見できた、自分たちでは気付かなかった青森市の魅力について、より多くの人へ発信を頑張ります。

<Improve A.B.C.>

まず、おすすめの本を紹介するための活動を行いました。自分のおすすめの本を持参し、Instagramへの投稿文とハッシュタグを考えました。それから、写真撮影を行い事務局に画像加工をお願いし、投稿の準備ができました。

次に、駅前スクエアでのパネル展で掲示する模造紙の作成をしました。前回でほぼ完成させることができていたので、文言を追加したり絵の色塗りをしたりして、無事に完成させることができました。

最後に、理想の青森市について話し合いました。今日はメンバーが少なかったため、希望や理想をたくさん出すことにし、「友達が映画館は必要と言っていた」という意見から映画館を作ることや、「浪岡にも水族館が欲しい」という意見から、「水族館はすでに浅虫にあるから動物園は？」と、浪岡動物園の建設など、楽しみがいっぱいある青森市を考えました。



令和5年度 第13回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和5年11月11日（土）9時00分～12時00分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席者 子ども会議委員7名、子どもサポーター1名、事務局3名
- 4 活動内容 子ども会議フォーラム2023に向けて
- 5 開催概要

来週に迫った子ども会議フォーラムに向けて活動を行いました。

子ども会議フォーラム2023に向けて

まず、それぞれのチームに分かれ発表原稿とスライドの確認を行いました。

推し隊では、かわりばんこに原稿を読み、その中で読みづらかった漢字にふりがなをふったり、分かりづらかった部分の言葉を言い換えたりしたほか、発表スライドについては実際にパソコンを操作して修正を行いました。パソコン操作はパソコンが得意な小学生委員や高校生委員が積極的に行ってくれました。浅虫の散策コースの写真を入れたり、原稿の内容とスライドの内容を確認したり、字体や文字色を見やすく修正したり、実際に提案する内容のスライドや表紙をつかって、完成させました。

Improve A. B. C. では、初めにみんなで原稿を読んで、追加や修正を行いました。その後、それに合わせて、スライドを修正しました。スライドでは、小学生委員が積極的に取り組み、サポーターに手伝ってもらいながら、文字の打ち込みや画像の挿入などを行い、無事に完成させることができました。



最後に、Instagramに投稿する子ども会議フォーラム当日までのカウントダウン動画を撮影しました。みんなで楽しそうに盛り上がっている動画を撮ることができました。

来週はいよいよ子ども会議フォーラム本番です。

令和5年度 青森市子ども会議フォーラム 2023

FOR CHILDREN ～とどけ！市（まち）に私たちの声！～

- 1 日 時 令和5年11月19日（日）8時30分～12時45分
- 2 場 所 青森市議会議場、委員会室
- 3 出席者 子ども会議委員11名、子どもサポーター4名、事務局11名
- 4 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 市長あいさつ
 - (3) 私たちからの意見提案
 - (4) 市長総括
 - (5) 閉会

5 開催概要

市では、「青森市子どもの権利条例」において、毎年11月20日を「青森市子どもの権利の日」とし、この日にふさわしい活動を行うこととしています。

青森市子ども会議では、子どもが意見を表明し市政に参加する機会として「青森市子ども会議フォーラム2023 FOR CHILDREN ～とどけ！市（まち）に私たちの声！～」を、市議会議場をお借りして開催しました。

今年度新しく、会場にフォトスポットとキッズコーナーをつくりました。これは、昨年度の来場者アンケートで「小さい子どもも楽しめるコーナーがあると良い」という意見が多かったこと、委員からも「フォーラムに来場した人がInstagram等に投稿しやすい写真コーナーがあると盛り上がり良い」という意見が多かったことで実現しました。



リハーサル

午前8時30分、委員会室に集まって、各グループで原稿を読む順番と感想を発表する人を決めました。それぞれ自分の読むところを確認し終えたところで9時になったため、議場に移動しリハーサルを行いました。リハーサルから、原稿ばかりを見るのではなく、目線より少し上を見て堂々と話すことを意識しました。

開会

司会を務める高校生委員から、開会のあいさつと子ども会議についての説明がありました。

本日のイベントは、子どもにとって大切な権利の一つである「意見を表明し参加する権利」を主眼に置き、青森市子ども会議の委員が企画・運営しています。

私たちが参加している青森市子ども会議は「青森市子どもの権利条例」に定められており、今年度は、小学生 8 名、中学生 12 名、高校生 5 名の委員が、子ども会議サポーター 9 名のアドバイスをいただきながら「もっと魅力あふれる青森市に！」をテーマに活動を行いました。

本日は、ここ青森市議会議場において、「私たちからの意見提案」として、2 グループから今年度の活動を通じて気づいたことを発表し、西市長をはじめ理事者のみなさまからお答えいただきます。

最後まで私たちの発表をお聞きいただけたらと思います。



市長あいさつ

市長から、昨年度の子ども会議フォーラムでの意見・提案に対する成果について説明がありました。

本市では、毎年 11 月 20 日を「青森市子どもの権利の日」と定め、子どもが意見を表明し、参加する機会を提供しています。ここ青森市議会議場での開催は今回で 6 回目となります。

前回の子ども会議フォーラム 2022 では、2 つのグループから意見・提案をいただきました。

はじめに、Instagram での情報発信に取り組んだ「PCAPCA (パカパカ) グループ」からいただいた、「浪岡城跡へ各所の説明用二次元コードを備え付けてほしい」との意見には、令和 5 年 4 月に城跡の雰囲気にも馴染む立て札風の看板を設置しました。こちらの看板に掲載されている二次元コードを読み取っていただくと、各館の概要説明がされている市ホームページへ繋がっております。浪岡城跡の全体図や各館の見どころも分かるようになり、より浪岡城跡の魅力が伝わるようになりました。子ども会議委員の皆さんも、もう一度訪れ、立て看板を利用した二次元コードから浪岡城跡の魅力を知って欲しいと思います。

続いて、自分たちでスポーツイベントの企画運営を行った「Event Enjoy チーム」からは、「市が企画したスポーツイベント情報を入手しやすい環境を整備してほしい」という提案をいただきました。この提案を受け、市ホームページでは、令和 5 年 1 月から「みんなのスポーツイベント」ページを作成し、毎月のスポーツイベントをイラストも使って分かりやすく情報提供しています。

このように、皆さんからの声や他の人たちの声を集め、形にすることによって、より魅力あふれる青森市になっていくものと思っております。皆さんが青森市に誇りをもって、これからの道を歩いていくこと、それが未来の青森市を創っていく原動力になります。青森市子ども会議委員の皆さんのこれからの多に期待して私からの開会のご挨拶といたします。



私たちからの意見提案（推しを発信し隊）

<活動をはじめたきっかけ>

今年度やりたいこととして、令和3年に開設した子ども会議公式 Instagram を引き続き活用し、「青森市の魅力をもっと多くの人に広めたい」、そして「自分たちも知らない魅力を見つけたい」と考えたメンバーで構成されているのが、私たちオン隊です。グループ名の由来は、その名前のおりいろんな青森市の推したい魅力を発信したい思いから決めました。

私たちが広めたい魅力として、「スポット」では国際芸術センター（ACAC）と浅虫地区の2つを、「独自の食」では棒パンとあおもり海道そばの2つを主軸に活動を進めました。



<これまでの活動>

○スポット① 国際芸術センター

8月に、毎月第4日曜日に開催している「見えない建築ツアー」に参加しました。虫や鳥の鳴き声や周りにある森などの自然を楽しみながら国際芸術センターそのものや野外彫刻などの展示について説明を受けました。

国際芸術センターは、有名な建築士である安藤忠雄氏が手掛けた建造物で、美術館のように作品が展示されるだけでなく、芸術家を支援するために泊まる場所や作品を作る場所もある複合施設です。

野外彫刻は、森や木々、道路にまぎれていたり、屋根の上にも草を生やしていたりなど、「自然と一体」がテーマになっているように感じました。そして、野外で展示されていることで、雪や雨にさらされ色が薄くなったり、台風により一部がなくなったりしていましたが、それも自然の一部だという作者の意向を尊重し、そのまま展示を続けているという話がとても趣深かったです。

今年度は猛暑が続いていたこともあり、見学しているととても暑かったです。施設のスタッフさんに聞くと、雪を活用した冷房になっていることを教えてもらい、雪がこんなところにも活用されていることに感動しました。

この施設は無料で見学できることが魅力の一つで、無料で楽しめるスポットなのに、展示されている作品や四季折々でみせる景観や自然などの魅力がまだまだ青森市民にも知られていないと感じました。



○スポット② 浅虫地区

青森市子ども会議委員が考える浅虫の魅力がたっぷり伝わる散策コースをつくりました。このコースは、有名な浅虫の温泉を満喫でき、低予算で楽しめるコースで、浅虫温泉駅前にある誰でも無料で入れる足湯からスタートします。足湯を満喫した後は、温泉卵と飲泉が無料で体験でき



るスポットに向かい、二度目の足湯と温泉の味を堪能します。そこへ向かう途中で、有名な『あさむし温泉プリン金治郎』のプリンをテイクアウトすることもできます。そして、最後に浅虫の海を眺めながらジェラートを食べるコースです。

このコースは散策して疲れた足を癒しながら回り、最後にリフレッシュできるのが押しポイントで、足湯の温度の違いなども楽しめるコースになったと思います。

○食① 棒パン

私たちからすると、棒パンはイベントや学校の祭で体験できる親しみのあるものなので、青森市以外の人には知らないと思った時はとても驚きました。そのため、青森市の食の一つとして棒パンを推すためにレシピづくりから計画しました。いつもは焼くだけの棒パンも、生地作り、棒の用意や火おこしを自分たちで全部行ってみると、意外と大変でした。

食①棒パン

- ・サミットの開催やテレビにも取り上げられるなど、関心が集まってきている「食」
- ・小さいころから親しんでいたため、青森市以外では知られていないことに驚いた

【体験】

レシピを決める→棒も準備→生地をつくる(冷凍)→炭起こし→棒に巻き付けて焼く(八甲田憩いの牧場) →バタートッピングがおすすすめ→

いつもは焼くだけの棒パンも全部自分たちで行うのは大変だった。棒パンの魅力を紹介していきます！

○食② あおもり海道そば

平成 30 年度の子ども会議の活動で知った青森市の特産品で、海道である国道 280 号線沿いで作られているから「海道そば」と命名され、JA あおもりでの直売だけでなく、市内のお店でも提供されています。より多くの人に手に取ってもらえるよう、私たちもこれから PR を頑張りますが、いろんな青森市の食が集まるブースなどがあると、観光客はもちろん市民にも青森市の食の魅力が伝わり、集客効果も期待できるのではないかと考えました。

食②あおもり海道そば

＜あおもり海道そばとは＞

- ・平成30年度の子ども会議の活動の中で知った青森市の特産品
- ・海道である国道280号線などの海沿いでつくられていることが名前の由来

市内飲食店で食べられる！ JAあすなる自売センターでも購入できる！

＜推すために＞

- ・青森市の特産品や食が集まるブースがあると魅力が伝わりやすいのでは？

【反省】食の活動の中で食べきれず持ち帰ってしまった・・・ →身近な食である学校給食の量や味付けの基準を知り、これからの活動に活かしたい

また、これらの食の活動の中で、最後に食べる時間が足りなかったり量が多かったりと、活動時間中に食べ切れないことがありました。今後の活動の参考にしたいため、自分たちの身近な食である学校給食の味付けや量が、どのような基準で決められているのか知りたいと思いました。

○「まつもと未来委員会」とオンライン交流

長野県松本市にある「まつもと未来委員会」とオンライン交流を行い、お互いの市の魅力を教え合ったり、子どもの権利に関するクイズを出し合ったりしました。りんごや雪国など共通点が多い中、海や城の有無の違いがお互いの市の魅力になるのではないかと考えました。

ただ、お互いりんごが名産でも育てている品種が違うなど、共通点の中にも違いがあることを発見しました。お互いの異なる部分が魅力的に映るのはもちろんですが、共通点の中での違いや、課題の中にも魅力があることを感じました。そこで、私たちが考えた「海の魅力」や「お互いの

共通点の中にも違いを発見！

青森市 「ふし」「つがる」 松本市 「秋映」「シナノスイート」「シナノゴールド」

「温泉」→足湯 「湧き水」→水飲み場、水路

- ・お互いにないものが魅力
- ・共通点の中での違いも魅力
- ・課題の中にも魅力があることを知った

Instagram に投稿！

違いから感じた魅力」などを公式 Instagram に投稿しました。交流会で松本市の魅力を聞いてみると「良いなあ」と思うことが多かったですが、それに負けないようにわたしたちも青森市の魅力をどんどん推して「青森市のファン」を増やしたいと思います。

以上の、食の体験と国際芸術センターの見学を踏まえ、私たちオシ隊から 3 つの意見提案があります。

- ① 青森市の学校給食の量はどのように決められているのか、また食べ残しを減らすためにどのような取組をしているのか今後の活動に活かすために教えてください。
- ② 新中央埠頭へのねぶた小屋の常設化を前向きに検討すると報道されていました。八食センターやラーメン街道などのような、青森市のソウルフードを提供する施設の整備についても一緒に検討できないでしょうか。
- ③ 国際芸術センターの冷房システムについて、十分な冷房機能はないように感じました。滞在するアーティストやセンターを訪れる人が快適に過ごせるために、今後、冷房等の設備を設置してはいかがでしょうか。

市からの回答

(西市長)

②の質問についてお答えします。ねぶた小屋と青森市のソウルフードを提供する施設をあわせて建設するという、子ども会議の皆さんからのご提案は、世界中を旅行するクルーズ船が東北で一番寄港する新中央埠頭をはじめ、ワ・ラッセやアスパム、青函連絡船八甲田丸、青森駅前ビーチなど観光スポットが集まるウォーターフロント地区一帯の活性化につながるとても良いアイデアだと考えます。



今後、ねぶた小屋の建設について検討を進めていくに当たっては、ご提案の内容も参考に、多くの飲食店などがある新町や「のっけ井」を提供している古川市場に近く、気軽に青森市の食や文化を楽しんでいただける環境が整っているというウォーターフロント地区の特徴のほか、建設に必要な費用のことも考えて、青森市の賑わいにつながる施設となるよう検討していきます。

(教育委員会事務局 小野教育部長)

①の質問についてお答えします。ご質問の学校給食の提供量について、学校給食は、成長期にある児童生徒の皆さんの心身の健全な発達のため、栄養バランスの取れた食事を提供する必要があります。

このことから、児童生徒の皆さんの発達段階に応じて、文部科学省が定めている「学校給食摂取基準」に基づき、栄養教諭・学校栄養職員がこの基準値を満たした献立を作成し、学校給食を提供しています。

したがって、学校給食を残さず食べることで、必要な栄養バランスを満たすこととなりますので、

児童生徒の皆さんには、できれば残さず全部食べて欲しいと考えています。

次に、食べ残しを減らす取組について、教育委員会では、食べ残しが多い献立については、食材の組み合わせを変更したり、味つけにメリハリをつけたりするなど、献立の見直しを行っています。

これらの取組に加えて、児童生徒の皆さんには、食べ物の大切さや生産者、給食に携わる方々への感謝の心を育むため、給食時間の校内放送で呼びかけたり、「こんだてのお知らせ」、「給食だより」に記事を掲載して、各家庭に配付しています。

(企画部 織田部長)

③の質問についてお答えします。国際芸術センター青森の建物は、企画展を実施するギャラリーやコンサート等を行う野外ステージからなる展示棟、木工スタジオや世界最大級の銅版画プレス機がある銅版画スタジオからなる創作棟、全10室の宿泊棟の3つの棟で構成されており、建物の冷房について展示棟のギャラリーでは、冬期間に建物周囲に積もった雪を雪室に詰め込んで保存し、夏季にその冷風を用いて室温26度を保つようにしています。



青森公立大学によると、この雪室を活用した冷房設備は例年であれば6月中旬から稼働を開始し8月上旬頃まで使用できていたが、今季は記録的な猛暑のため、7月下旬には雪室の雪がなくなり冷房が機能しなくなったとのことです。

このため、ギャラリーに隣接する雪室冷房以外の冷房設備がある部屋から扇風機を用いて冷気を送るなどの対応をとったとのことです。

市域全域が特別豪雪地帯に指定されている本市では、雪対策の一環として雪の利活用に取り組んでおり、国際芸術センター青森の雪室冷房も有効な取組の一つであるものと認識しています。

これまでは、標高が高い森の中という冷涼な環境に建設されていることから、夏の暑さ対策としては雪室による冷房設備で対応可能であったが、近年は世界的にも温暖化が進んでいるといわれており、今後の暑さ対策については、その状況を見据えながら、青森公立大学との連携のもと、来館者やアーティストが快適に過ごすことができるよう適切に対応してまいりたいと考えております。

回答を受けての感想

私はあまり給食が好きではなく、残すことが多くありました。しかし、私たちのために栄養のことだけではなく食育のことも考えてくださっていること、それにたくさんの人が関わっていることを知り、明日の給食は絶対に完食しようと思います。

また、雪などの魅力の発信のため、市ではたくさんの工夫をしていることを教えてもらえました。良いところがたくさんある青森市なので、私たちも公式 Instagram でたくさん発信していこうと思います。ありがとうございました。



私たちからの意見提案 (Improve Aomori City by children)

<活動をはじめたきっかけ>

私たち Improve A.B.C. は、年度当初に「今年度活動したいこと」として「青森市の“困った”を改善し、より魅力的な青森市にしたい」、「青森市の魅力づくりの手伝いをしたい」と考えたメンバーで構成されています。

まず、私たちが改善したいと考えたのは、「多いごみの排出量・低いリサイクル率」と「低い読書率」です。そこで、それらを改善するために「合浦公園でのごみ拾い」や「青森市清掃工場の見学」、「おすすめの本の紹介」を行いました。



<これまでの活動>

○合浦公園でのごみ拾い

合浦公園を選んだ理由は、海浜があること、桜まつりなどのイベント会場になることなどから、青森市民の身近にある憩いの場所だと考えたからです。ごみ拾いを行った8月は夏休みと海開きの時期であったため、訪れる人も多く、落ちているごみも多いと思いましたが、想像よりも少なく、綺麗に使われていることがわかりました。しかし、たばこの吸い殻や花火のごみなど落ちてあったことから、ポイ捨てをする人がいることもわかりました。



○青森市清掃工場の見学

合浦公園で拾ったごみを実際に青森市清掃工場に持ち込み、施設内の見学をしました。青森市清掃工場は平成27年に新しく造られた綺麗な建物で、青森市だけでなく平内町や今別町、蓬田村から出るごみも処理しています。青森県は全国で3番目にごみの量が多く、リサイクル率は41番目と非常に悪いことを知りました。これらを改善するために自分たちにできることは分別です。ごみをちゃんと分別し、リサイクルできるものを分けることで、ごみの量が減ります。まずは、自分たちの家庭ごみから意識して取り組もうと思います。

そして、分別を間違えて燃えるごみに電池やバッテリー、スプレー缶、油が混ざってしまうと爆発や発火が起き、施設が停止する事態になってしまいます。実際に燃えるごみに混ざっていた電池が爆発して、処理施設の一部が壊れてしまう事件が複数件起きていることを教えてもらいました。こういう事故を防ぐためにも、分別は大事であることを学びました。

最後に、みんなで足踏み発電にチャレンジしました。終わった後は歩き方を忘れるくらい疲れましたが、それでも最高は3.6mWで、その日の清掃工場ではその約10億倍以上発電されていて驚きました。青森市以外のごみも処理して発電もできる清掃工場は素晴らしい施設だと思いました。



○おすすめの本の紹介

低い読書率を向上させるために自分たちができることを考え、公式 Instagram でおすすめの本を紹介することにしました。自分たちのおすすめの本を見た人が、少しでも「読んでみたい！」や「おもしろそう！」など興味を持ってもらえれば、読書率が向上するきっかけになると思ったからです。メンバーそれぞれのおすすめの本を少しずつ投稿していますので、ぜひご覧ください。



そして、身近にある読書の機会と言えば、学校での朝読書ですが、何の本を読もうか悩むことがあります。そこで、市民図書館などのおすすめの本以外に、同年代の子どもたちが実際に朝読書で読んでいる本やおすすめの本を手軽に知ることができる、例えば市内の全小中学生に配付されているタブレット端末で紹介し合える環境などがあれば助かるなあと感じました。

また、子ども会議委員が通っている学校では、各学期で、図書室で1番本を借りた人を表彰するところもあったので、さらに広げて、市内の全学校でランキングをつけることで競争心が生まれ、図書室を利用する人が増えるのではないかと考えました。

○仮想まちづくり

青森市の地図を見ながら、駅や道路、空港などはそのまま活かし、わたしたち子どもの目線から考える「魅力的な青森市」について話し合いを進め、さらなる青森市の魅力づくりについて考えます。

市役所などの公共施設、病院などの医療施設、学校などの教育施設は、現在の数や立地でも不便がないため、このままを想定し、そのほか新しく欲しいものを考えました。



例えば、青森市の観光施設を増やしたいので、札幌の“白い恋人テーマパーク”を参考に、名産品のテーマパーク“アップルテーマパーク”を、観光客も交通手段に困らない新青森駅近くに造ろうと考えました。

「青森市に欲しいチェーン店」や「生活する中で欲しいと思ったもの」については、今年から青森県にも進出し始めた「サイゼリヤ」が青森市にはまだないので欲しい、浪岡に遊び場が少ないからアミューズメント施設や動物園が欲しい、などの意見が出ました。

冬の青森市についても話し合い、雪を楽しめることも青森市の魅力の一つではありますが、除雪や排雪が大変であること、登下校の通学路にも雪が積もり、歩くのに苦労する場所や車道を歩かなければいけない場所があって危ない、などの意見がありました。どうすれば良いか話し合いましたが、除雪を頑張るしかないのではないのか、アーケードのようなものがあれば積もらないのではないのか、道路に温泉を活用したヒーターを設置して自然に融けるようにするのはどうか、などの意見が出ましたが、解決するのは難しい問題だと感じました。

話し合いが進まないこともあり、まちづくりはとても難しかったですが、これらの活動を通して、大人も子どもも市民全員が、楽しく暮らせる魅力あふれる青森市を頑張って考えます。

- ③ 学校の「いじめアンケート」について、子どもの声を集められるようにアンケートの設問内容や回収方法について検討してほしいです。また、「子どもの悩みや相談を言いやすい環境」を整備して欲しいです。

市からの回答

(西市長)

①の質問にお答えします。本を紹介できる制度については、各小・中学校の図書館では、所蔵する本のデータベース化を図り、現在では、市民図書館を含め、市内全小・中学校とのネットワーク化が進み、各校の図書館に備えている端末からデータベースを検索できるようになっており、様々な本との出会いが可能となっています。

また、教育委員会においても、学校図書館読書感想文コンクールを実施し、最優秀賞、優秀賞、優良賞、佳作の全入選作品を作品集にまとめ、市内小・中学校へ配布したり、「青い森の子ども読書新聞」を発行し、入選者が読んだ本を紹介したりするなどしており、良書の紹介となっています。

その他各校においても、図書館イベントの開催や集会等での図書委員会による発表、図書館だよりの発行等により、児童生徒のみなさんがたくさんの本に出会えるよう取組を行っているとの報告を受けています。

教育委員会では、読書活動において競争することが目的とならないよう、ランキングに代わるものとして、1人1台端末や読書カードに読んだ本のタイトルや作者などの読書記録を付け、自分の読書履歴を確認できるようにすることで、読書の質の向上につなげる取組を今年度から強化しました。これら読書カード等の取組により、多くの本に触れ、心を耕し、読書に親しんでいる児童生徒を表彰する学校もあると聞いています。みなさんも、読書カードを活用しながら、図書館へ足を運んでみてください。読んでみたい本に必ずや出会えると思います。

今日は教育長も出席して聞いておりますので、皆さんからいただいたご意見は教育長から校長先生にもお伝えいただいて、みなさんがこれまで以上にたくさんの本に出会えるようにしたいと思います。みなさん、充実した読書生活を心掛け、楽しい学校生活を送ってください。

(都市整備部 土岐理事)

②の質問についてお答えします。冬期における通学路除雪については、教育委員会とも情報共有し、児童・生徒の通学路の安全確保に努めています。今年度は、9月に開催された青森市通学路安全推進会議において、通学路の点検箇所が、現時点で、昨冬の277箇所から27箇所増の304箇所示されたことから、今冬においても教育委員会と連携し、通学路の確保に向けて取り組んでまいります。

本市の歩道除雪については、青森地区では、幅員2.5m以上は小型ロータリ除雪車により、また、幅員2.5m未満はハンドガイド式小型除雪機又は人力により作業を行うことを原則としているが、道路構造物等により、これらに依り難い場合は、車道排雪時に歩道も含めて同時に大型ロータリ除雪車



等の重機で作業を行います。また、浪岡地区では、原則として小型ロータリ除雪車により作業を行っています。

今後とも歩道については、機械除雪及び人力による除雪を実施し、安全な歩行者空間の確保に努めてまいります。

(工藤教育長)

③の質問についてお答えします。本市の各小・中学校では、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けて、皆さんからご質問のあったアンケート調査等を実施しており、「いじめた方」「いじめられた方」とともに教育相談を行い、ご家庭にも状況を伝えるとともに、共通理解を図りながら、その後の生活についての見守りを行っています。

その結果、青森市のいじめの認知件数は、令和4年度1年間で、小学校1,911件、中学校574件の合計2,485件となっており、小・中学校ともに全国の割合よりも高い状況となっています。

また、いじめの内容については、本市の小学校では、ひやかし・からかい、軽くぶつかられた・軽くたたかれた、嫌なことをされた・させられたの3つで約8割となり中学校も同様に約7割になっています。これらの結果は、皆さんの学校の先生方が、いじめのみならずいじめにつながる些細な行為もいじめと捉え、指導している結果であり、これを積極的認知と呼び、国においても認知件数が多いことは好ましく、大切なこととしています。

質問のありました「いじめアンケート」について、また「悩みを相談しやすい環境」については、本市の小・中学校では、児童生徒の皆さんが相談しやすく、素直な声を集められるよう、アンケート用紙を提出するに当たって、裏返しにしたり、一人一人提出したりすることや、用紙を活用せず、1人1台端末を活用してデータで提出していることなどの配慮をしているほか、1人1台端末については、定期的なアンケートの他、随時相談を受け付け、相談しやすい先生を選んで相談できるようにしていることや学校以外の相談機関を複数紹介していること、また、チーム担任制や教科担任制を実施し、複数の目で皆さんの生活を見守るようにしていること、二者面談や三者面談など定期的な相談機会、スクールカウンセラーなど、心理に関する専門家による相談機会を設けていること、授業の中でもいじめを取り上げるなどして、いじめについて学級全体で考える機会を設けていることなど、多岐にわたっています。

これらの対策については、各校の実態に応じて実施していますが、必要な場合には先生に相談してみてください。今日の皆さんからのご意見については、校長会議において私からも伝えておきたいと思っております。皆さんもまた、各校において、どんなことをしたらいじめが防げるのか、安心して楽しく通える魅力ある学校づくりについて、友達と一緒に考えてみてほしいと思っております。



回答を受けての感想

いじめアンケートについての回答を聞いて、学校でも僕たちが相談しやすいように様々な工夫をしてくれていることが分かりました。困った時には、自分から信頼できる先生に相談しに行くようにします。



市長総括

みなさん発表していただいてありがとうございました。それぞれに少し感想を述べさせていただきます。

まず、オン隊は良いところに目をつけました。ACAC や浅虫温泉は、これからもっと力を入れていかなくてはいけないスポットだと認識していたので、今回ちょうど良いアイデアをいただいたと思っています。

それから、実は青森オリジナルである棒パンですが、最初にイベントで広めたのは青森青年会議所の人たちでした。試しに子ども向けに棒パンをやってみたところ、ものすごい人気で、それ以来青森の文化として定着しました。ぜひ皆さんも、棒パンを楽しんでもらうと共に、今後ずっと青森の名物として続いていくように力を貸してもらいたいと思います。



ラッセランドにつきましては、まさにこれから具体的な検討を始めるところにありますので、今回のご意見は大いに参考にさせていただきます。

続いて、Improve A. B. C. の「青森市の困ったを改善しよう」という着眼点はとても良いですね。「ごみの排出量が多い」・「リサイクル率が低い」はまさに真剣に青森市で取り組んでいる課題です。解決策は、分別をしっかりとリサイクル率を上げることに尽きますので、皆さんもお家の中で分別する癖をつけてもらいたいです。

そして、「読書率が低い」ことについて、おすすめの本をまず読んでみるというのは良いことだと思いますので、皆さんもぜひ読書癖をつけてたくさん読んで欲しいと思います。

最後に「子どもの権利」ですが、これはとても重要なことです。いじめや虐待から子どもたちを守らなければいけない。子どもたちが安心して、健やかに成長して、未来の青森市長を担っていく人材になることを私も心から願っています。そのために子どもたちを守る、ということを行政として一生懸命やっていきたいと思っていますので、何かあればいつでも言ってください。

皆さんの意見をしっかりと聞きましたので、それを一つ一つ市政に反映させるための参考にしていきたいと思っています。

最後に、私が凄く気をつけていることをお伝えします。それは「対話」です。まさに、この議会では普段議論をしていますが、意見を戦わせすぎると対立してしまいます。私は、どうやったら歩み寄ることができるかを考えたいと思っています。言った人や相手の考えを否定し一方的な話を言うのではなく、お互いに話を聞き合って、両者になるべく納得できる点を探し出す「対話」が重要です。

いろんな話し合いにおいて、意見を戦わせて対立を招くのではなく、対話を重んじて、お互いに話を聞き合い、お互いに納得できる部分を見つけてください。それが今後の未来に繋がっていくのだと思っています。みなさんには「対話」という言葉を一つ持って帰ってほしいと思います。

私からは以上です。今日は本当にありがとうございました。

閉会

最後に、記念撮影を行い、子ども会議フォーラム 2023 が終了しました。私たちが考えたことについて、市長や理事者から直接回答をいただき、私たちの声が市に届いていることが実感できました。今年度の残りの活動も実りあるものにできるよう、取り組んでいきたいと思っています。



令和5年度 第14回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和5年12月23日(土)9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席者 会場参加：子ども会議委員5名、子どもサポーター3名、事務局2名
オンライン参加：子ども会議委員2名
- 4 活動内容 (1) 子どもの権利トークイベントについて
(2) グループ活動
- 5 開催概要

子どもの権利トークイベントについて

去年実施したトークイベントの内容を共有した後、2月に開催するトークイベントについて、子どもサポーターの進行のもと、事前アンケートの結果を用いて詳しい内容を話し合いました。

まずは、トークの形式について、昨年と同じく2種類行うことにしました。昨年度、一般参加者と子ども会議委員ともに一番人気の高かったディベート形式のトークゲームと、もう1つは多数決を行い、フリートーク形式に決まりました。フリートークは一般参加者も参加しやすく、普段から馴染みのある形式であり、当日戸惑うことはないだろうという理由からみんな納得することができました。

次に、お楽しみコーナーで行うことについて、的あて・クイズ・ワードビンゴ・けんりはかせを探せの4つが事前アンケートでほぼ同じ票数になったため、この中から絞るのではなく、全部やる方向で内容を修正しました。的あては、子どもの祭典で使ったものを再利用することにしました。子どもの祭典では、“けんりしんがいくん”や権利侵害がされている状況のイラストの的を用意しましたが、今回はけんりはかせの的や子どもの権利が守られている的など、倒してはいけない的も用意することにしました。クイズでは、子どもの祭典で使用したクイズから3問と、クロスワードと「けんりはかせを探せ」を取り入れることにしました。

このほか、去年のトークイベントに追加して「子どもの権利川柳の募集」などの新しいことをやりたいか考えましたが、去年のイベント内容を修正して、しっかりと今年は運営したい、という意見から追加コーナーは設けないことにしました。

そして、トークテーマの候補を話し合いました。イベント当日、参加者があまり悩まずに決められるよう、少なめに用意することにし、ディベート形式では「①友だちは多い方が良い？悪い？」「②ウソは良いこと？悪いこと？」「③個性と協調性、大事にするのはどっち？」「④お金がある世界となない世界どっちが幸せ？」、フリートーク形式では「①ふつうってなに？」「②『やさしい』ってどういうこと？」「③『空気を読む』ってどういうこと？」「④絶対に必要だと思う教科はなに？」に決めました。

最後に、チラシデザインについて話し合い、前回のトークイベントと同じ新聞調、フォーラムのチラシと同じ黒板調、仮想世界の3つの意見が出て、多数決の結果、黒板調に決定しました。

グループ活動

<オシ隊>

新しいクイズ問題について考えたり、浅虫散策マップに使えるイラストを書いたり、フォーラムの感想などをそれぞれ出し合いました。

<Improve A. B. C. >

グループ活動の続きを行い、初めにおすすめの本の紹介をまだInstagramに投稿できていない委員は、投稿文を考えたり写真を撮影したりしました。

次に、みんなで仮想まちづくりの活動を進めました。青森市の課題から、それらを解決するためにできることを、まちづくりに落とし込むことにし、青森県の平均寿命と自殺率が全国の中でも非常に悪いことから、長生きするために必要なことを考えました。子どもの肥満度が高く、運動をする習慣があまりないことから、冬でも体を動かせるような場所や、誰でも手軽に利用できるスポーツジムの普及を考えました。病院についても考え、待ち時間や自宅からの通いやすさを話し合ったところ、浪岡地区に住む委員から出た「眼科は黒石に行っている」という意見に、新城地区に住む委員も「眼科は近くにないので青森駅の方まで来ている」と、普段は意識していなかった通いやすさも考えるきっかけとなりました。

他にも、自殺者を減らすための取組として、相談機関の利用促進を考え、現在知っている相談機関を出し合いましたが、チラシなど見たことがあっても覚えていないことに気づきました。自分が困ったときはもちろん、友達に相談された際に「こういうのもあるよ」とすぐ教えてあげられるような状態が望ましいと考えました。相談機関の周知が必要で、その方法についても考えたいと思いました。



令和5年度 第15回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和6年1月27日(土) 9時15分～11時45分
- 2 場 所 青森市中央市民センター2階 調理室
- 3 出席者 子ども会議委員9名、子どもサポーター2名、事務局3名
- 4 活動内容 グループ活動
- 5 開催概要

グループ活動

<オシ隊>

2回目の料理活動です。前回の料理活動では時間が足りなかった、ラーメントッピングの食べ比べとあおり海道そばの試食をして、魅力を考えました。

最初に、青森市子ども会議フォーラム2023で小野教育部長から教えてもらった「学校給食摂取基準」に基づいて作る量を考えました。中学1年生～高校3年生の委員6名が参加したので、830～860kcalを基準として約3人分、合計2,500kcal以内に収まるように、あおり海道そば一袋とあおり海道そばそうめん約700kcal、味を比べるための市販の乾麺そば約100kcal、トッピング試食用にしょうゆラーメン2人前の約800kcalを基本に、もし追加でつくっても大丈夫なように、約1,000kcalの余裕があるように計画しました。



あおり海道そばとあおり海道そばそうめん、乾麺のそばを食べ比べるため、2人ずつに分かれてそれぞれ袋の説明書きに沿ってつくりました。お湯が吹きこぼれないようにしっかりと混ぜながら茹でたのですが、あおり海道そばは途中で切れてしまっており、長いものはほとんどありませんでした。海道そばそうめんと乾麺のそばは切れているものは少なく、同じ「あおり海道そば粉」を使用している麺でも、切れやすさにも違いがあることが分かりました。あおり海道そばの麺がちぎれてしまった原因を考えたときに「ゆでるときに混ぜすぎたのでは？」という意見がでました。作り方を改善して、吹きこぼれないように火加減を調整するだけで箸などで混ぜない方法でつくってみたところ、麺が長い状態でゆであがりました。あおり海道そばをゆでるときのコツも公式Instagramで広めたいと思います。



また、「食べやすさ」「味(美味しさ)」「作り方」にもそれぞれ特色があったので表にして比べてみました。

麺の種類	食べやすさ	味	作り方
市販のそば	とても食べやすい。	食べなれている味。 ふつうに美味しい。	簡単。気を使わなくて良い。
あおもり海道そば	少しもちっと感じた委員もいた。 市販のそばと外見は同じ。	よりそばの味が感じられて美味しい。 お代わりしたくなる味。	ゆでるときに混ぜないこと。 混ぜると麺がちぎれてしまうため注意が必要。
あおもり海道そばそうめん	薄い藍か緑の色味。 色味が珍しく見ても面白い。	少し苦味を感じる委員もいた。藍粉末が苦味の原因かも。	茹で時間が短い。 藍粉末がお湯に出るが気にしなくて良い。

感想を言い合った中で面白かったのは、「市販のそばの方が食べやすい」とほとんどの委員が言っていたのに、あおもり海道そばをみんなが次々とおかわりしたことでした。なぜなのかみんなで話しあった結果、オシ隊では「市販のそばに比べてあおもり海道そばの方が香りや味が強く、それを美味しいと感じたからではないか」ということになりました。

次にラーメントッピングに挑戦しました。チョコレートとココア、コーヒー、チーズや天かす、ツナ、もちなどをトッピングしました。また、前回、レモンは塩味の方が合うと思う、という意見があったので、追加で塩ラーメンをつくり、りんごとレモンをトッピングしてみました。

チョコとココアについては、「合わない」「まずい」と先入観のある委員は、食べても「美味しくない」と感じていましたが、先入観のない委員は、ココアについては香りはココアでも味はしょうゆで、どこことなくベビースターのようなおやつラーメンみたい、まずくはない、と言っていました。ただ、チョコのトッピングは美味しくなかったので、バレンタインにチョコレートラーメンをつくった飲食店さんの努力がすごいことに気づきました。

前回の反省を活かし、最初につくる量をちゃんと考えてから計画したので、食べきれる量を制限時間内に調理することができました。次回、みんなの意見をまとめて魅力を発信したいと思います。

<Improve A. B. C.>

グループ活動の続きを行いました。おすすめの本の紹介をまだ Instagram に投稿できていない委員は、本を持参し、写真を撮影しました。

次に、仮想まちづくりの活動を進めました。今まで出た意見をまとめたものとして、「Improve A. B. C. が考える理想の青森市」の地図を作ることにしました。見た人が想像しやすいように絵も入れて、わかりやすい地図にします。活動報告会に向け、子ども会議フォーラムで来場者の皆さんからいただいた意見も取り入れながら完成を目指します。



令和5年度 第16回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和6年2月3日(土) 9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席者 子ども会議委員8名、子どもサポーター1名、事務局3名
- 4 活動内容 (1) 子ども会議フォーラム2023の振り返り
(2) グループ活動

5 開催概要

子ども会議フォーラム2023の振り返り

初めに、子ども会議フォーラム2023の振り返りを行いました。アンケート集計結果を読んで、考えたことなどを1人ずつ発表しました。アンケートでいただいた意見のうち、すぐに反映できるものはすぐに取り入れ、残りの活動を進めていきたいと思います。

グループ活動

次に、グループに分かれてフォーラムのInstagram投稿を考えました。

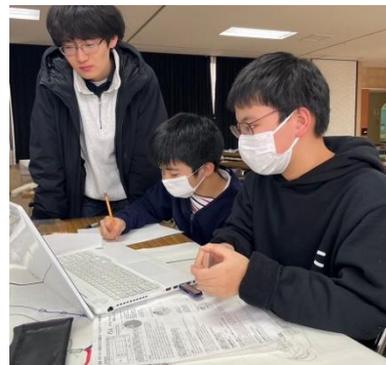
<オシ隊>

まず、青森市子ども会議フォーラム2023で、それぞれ自分の推したい部分を見つけ、Instagramへ投稿する原稿と写真を考えました。みんなが推したいと感じた部分が違ったことが面白かったです。Instagramの投稿では、学校で書く小論文や読書感想文とは異なり、相手に魅力が伝わる言葉を使わなければいけなかったのが難しかったです。

高校生委員にInstagramで投稿する画像の表紙を作成してもらったり、浅虫散策マップの地図を下書きしたり、イラストを手分けして描いたり、協力しながら浅虫散策マップを模造紙に書き始めました。また、青森市子ども会議フォーラムの来場者アンケートの中で「浅虫地区にあるホテル湖や浅虫水族館も推してほしい」という意見があったので、いただいた意見も取り入れながらマップをつくりたいと思います。

<Improve A. B. C. >

まず、フォーラムについてのInstagramの投稿を考えました。フォーラムで発表した3つの意見提案のうち、いじめアンケートについての提案に対して、「どんなことをしたらいじめが防げるのか友達と一緒に考えてみてほしい」との回答を受け、自分たちでいじめを防ぐためにできることについて考え、それを投稿することにしました。



次に、青森市の低いリサイクル率を改善するため、ごみの分別についての投稿を考えました。合浦公園でのゴミ拾いと青森市清掃工場の見学を振り返りつつ、ごみの分別を呼びかける投稿になるようにしました。投稿文を考える人と撮影をする人に分かれ、スムーズに進めることができました。

最後に、前回の続きである地図の作成を行い、絵を描いたりペン書きをしたりしました。

令和5年度 第17回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和6年2月17日（土）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター1階 視聴覚室
- 3 出席者 子ども会議委員8名、子どもサポーター1名、事務局3名
- 4 活動内容 (1) グループ活動
(2) 子どもの権利トークイベントに向けて

5 開催概要

グループ活動

<オシ隊>

浅虫散策マップの作成を進めました。イラストが得意な委員はイラストを書いたり、高校生委員にはマップに追加する情報について考えてもらったりしました。また、イラストが得意じゃない委員には「棒パン」の魅力についてInstagramで発信する内容をまとめてもらいました。

<Improve A. B. C. >

前回同様に、引き続き模造紙への書き出しを行いました。ニュース等で知った新しく青森市にできるものなど最新の情報も取り入れながら完成を目指します。

子どもの権利トークイベントに向けて

来週に控えた子どもの権利トークイベントに向けて、リハーサルも兼ねてトークゲームとアイスブレイクを行いました。

トークゲームでは、当日使用しないテーマの中から多数決で選び、「大事なものはお金と愛のどちらだと思う？」について、お金派と愛派に分かれディベートを行いました。お金派も愛派もそれぞれ協力して説得力のある主張をし、白熱したディベートとなりました。事務局に審判をお願いし、話し合いの様子なども含め見てもらい、今回は愛派の勝利となりました。

最後に、昨年に行った「煮干しラーメンを作ろう！」のアイスブレイクを行いました。イベントでは、トッピングの具材をいくつか変更して行うことにしました。



今回は、トークイベント本番です。参加してきてくれた子たちに楽しんでもらえるよう頑張りたいと思います。

令和5年度 子どもの権利トークイベント

- 1 日 時 令和6年2月24日（土）8時30分～13時00分
- 2 場 所 青森市役所駅前庁舎1階 駅前スクエア
- 3 出席者 子ども会議委員10名、子どもサポーター2名、子どもの権利擁護委員3名、事務局4名、一般参加者4名
- 4 活動内容 子どもの権利トークイベント
- 5 開催概要

「子どもの権利」のさらなる周知のため、トークを通して楽しく学び、体験してもらおう子どもの権利トークイベントを開催しました。

はじめに

司会の高校生委員から、子どもの権利擁護委員の紹介とイベントの開催趣旨、タイムスケジュールなどの説明がありました。



アイスブレイク

次に、参加者の緊張をほぐすために、「煮干しラーメンを作ろう！」のアイスブレイクを行いました。制限時間である3分以内に1グループもできなかったため、少し時間を延長し、2グループが煮干しラーメンを作ることができました。

トークゲーム（ディベート）

ディベートの説明とルールの確認、そして委員が前回の会議でディベートの練習を行った「大切にしたいのは愛とお金どっち？」のテーマで実演を行いました。全員でディベートの流れを理解できたところで、テーマ決めを行いました。候補の4つのうち、「個性と協調性、大事にするのはどっち？」と「お金がある世界とない世界どっちが幸せ？」の2つに決まり、それぞれ自分が話したいと思うテーマに分かれました。



〈グループ① 個性と協調性、大事にするのはどっち？〉

個性派では、個性を大事にすることで、自分の特性や内面を生かせること、多様性の社会に近づくこと、ストレスが減り、自由に生きられることなどのメリットがあげられました。協調性派では、協調性を大事にすることで、人に合わせることができ、柔軟に意見を取り入れることができるなどがありました。質問タイムでは、個性を大事にしすぎると周りに迷惑がかかるのでは？や、協調性がない

から周りの人と敵対するのではなく、お互いの個性を受け入れることができたらいいのでは？などたくさんの意見が出ました。

最後に、沼田委員から「どちらもメリットデメリットをよく考えることができている、最終的にどっちも大事にした方がいいよねという意見に行きついていたとおり、時と場合によってどちらを大事にすべきなのかは変わってくると思う。みんなにはそこを考えて生活してほしいなと思いました。今回のディベートでは、グループのみんなが積極的に自分たちの意見を言っていた個性派の方が良かったと思う。」と講評をいただきました。



〈グループ② お金がある世界とない世界どっちが幸せ？〉

お金がある世界の方が幸せ、と考えている人が多かったので、子ども会議委員が自分から積極的に移動し、お金がない世界の方が幸せ、という立場から考えることになりました。

お金がある世界の方が幸せ、と考えたチームでは、お金があることで物の交換がスムーズになり、主体的ではなく客観的な価値を定めることで経済発展につながる、水道や光熱費などの公共料金の支払いも可能になり娯楽を楽しめるまでになった、という意見があげられました。

お金がない世界の方が幸せ、と考えたチームでは、お金があることでクレジットカードや借金などのトラブルになることも多い、主体的な価値感により交換することでお金よりも簡単に自分がほしいものが手に入ることがある、お金による貧富の差がなくなる、違法薬物などの悪いものも広がりづらくなる、という意見があげられました。

お互いのチームで質問し合い回答する中で「なるほど」と納得することも多く、お互いの意見を理解することができました。

小林委員から「子ども会議委員のメンバーが違う立場でトークゲームをやってみよう、と声を上げたのがとても良かった。お互いのチームでお金によるトラブルや争いなど、より具体的に考えられたことや、質問への回答について協力する体制が見られたことが素晴らしかった。ただ、お金がない世界チームの方が周りの人の話を聞く力が少し弱い部分があった。今回のトークゲームではお金がある世界が幸せチームの方が良かったと思う。」とコメントをいただきました。



フリートーク

休憩後、参加者全員で1つのテーマについて自由に話し合うフリートークを行いました。関谷委員をファシリテーターに、「絶対に必要だと思う教科はなに？」について話し合いました。必要だと思う教科とその理由を発表し、ほぼ全ての教科が挙がりました。反対に、いらぬと思う教科についても考えてみたところ、先ほど必要だと挙がっていた教科が、自分はいらぬと思うという意見がたくさん出ました。みんな考えることが違って、さまざまな意見を持っていることがわかりました。

身近で話しやすいテーマだったこともあり、時間ギリギリまでトークが盛り上がりました。最後に子どもの権利擁護委員それぞれから一言ずついただき、フリートークは終了となりました。



お楽しみコーナー

最後に、子どもの権利のクイズやワードビンゴ、「けんりはかせを探せ！」や的あてなどのお楽しみコーナーを行いました。それぞれのゲームで獲得したポイント数に応じて景品がもらえるもので、100ポイント以上取得できた人が多かったのが良かったです。クイズではクロスワードも取り入れたため、回答に時間がかかっている人もいました。



今年度のトークイベントでは、参加者が少なく、委員からももっと参加者がいればよかったという声もあがったため、参加者を増やすための取組を考え、来年度に活かしていきたいと思ひます。

令和5年度 第18回青森市子ども会議

- 1 日 時 令和6年3月9日（土）9時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市総合福祉センター2階 集会室
- 3 出席者 子ども会議委員6名、子どもサポーター1名、事務局3名
- 4 活動内容 グループ活動
- 5 開催概要

活動報告会前の最後の活動です。今年度の集大成となる活動報告会に向け、各グループに分かれて最後の活動を行いました。

グループ活動

<オシ隊>

まず、活動報告会で発表する原稿について確認し合いました。書かれている内容や言葉回しについて修正し、活動報告会当日に発表しあう部分を決めることにしました。

続いて、浅虫散策マップの完成を目指して作業を行いました。これまで作ったイラストや考えたコメントを書いてマップへ張り付け、自分たちが考えたルートを書き込み、途中で Improve A. B. C. の子どもたちが海などを一緒にかいてくれました。

また、青森市子ども会議フォーラム2023の来場者アンケートで教えてもらった「浅虫温泉森林公園」や「浅虫ダム（ホテル湖）」の情報も追加し、より浅虫の魅力が伝わるマップを完成させることができました。



<Improve A. B. C. >

引き続き、「理想の青森市」の地図の作成を行いました。ほぼ完成していたので、浅虫水族館やワ・ラッセの絵を追加で描き、全体の色塗りを行い、無事に完成させることができました。

次に、活動報告会の発表原稿の読み合わせを行いました。みんなで読みながら、修正や追加等がないか確認し、その後、役割決めを行いました。発表する人、スライド操作をする人、模造紙（理想の青森市の地図）を指す人を立候補ですんなり決めることができました。最後に、発表する人と模造紙を指す人で軽くリハーサルを行いました。

無事にグループの活動を終えることができたので、残りの時間はオシ隊のお手伝いをして終了となりました。



次回は、今年度最後の子ども会議となる「活動報告会」です。

令和5年度青森市子ども会議活動報告会

- 1 日 時 令和6年3月17日（日）8時45分～12時30分
（活動報告会：10時00分～10時30分）
- 2 場 所 青森市役所 本庁舎 1階サードプレイス・3階会議室
- 3 出席者 子ども会議委員14名、子どもサポーター4名、事務局6名
- 4 活動内容 ・令和5年度青森市子ども会議活動報告会
（1）開会
（2）市長あいさつ
（3）令和5年度青森市子ども会議活動報告
（4）卒業委員から後輩委員へのメッセージ
（5）後輩委員から卒業委員への感謝の言葉
（6）市長からの感想
（7）閉会
・今年度の活動を振り返って

5 開催概要

ついに今年1年間の活動の集大成である活動報告会を迎えました。

開会

高校生委員の司会進行により活動報告会が始まりました。出席した委員、サポーターの紹介のあと、市長からごあいさつをいただきました。



市長あいさつ

今日は、昨年11月の議場で行った子ども会議フォーラム以降、オン隊の皆さんは浅虫地区の散策スポットや食の取組についてどのような活動をしてきたか、Improve A.B.C.の皆さんは仮想のまちづくりがどのようなようになったのかについて、ご報告いただけると聞いています。

私自身も市長になる前から、「青森市をもっと魅力あふれる街にしていきたい」という気持ちでいろいろな活動をしてきています。そして、市長になってからも青森市を魅力あふれる街にするために頑張っているのだから、皆さんの活動がとても頼もしく、これからは大いに頑張ってもらいたいと期待しています。それから、サポーターの皆さんには子ども会議の活動を支えてもらっていると聞いておりまして、厚く御礼を申し上げます。

これからの活動成果の発表を楽しみにしています。よろしくお願いいたします。



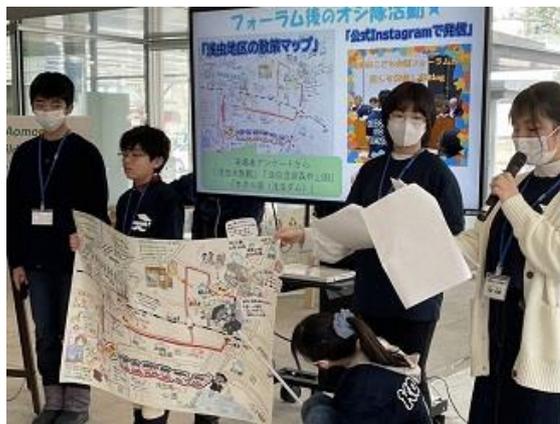
令和5年度青森市子ども会議活動報告

青森市子ども会議フォーラムを経てからの活動について、ご報告します。

オン隊は、「浅虫地区の散策マップ」の作成や「独自の食」について公式 Instagram での魅力発信を進めました。「浅虫散策マップ」は、自分たちが考えたコースに、フォーラムの来場者アンケートで伝えてほしいと意見のあった「浅虫水族館」と「浅虫温泉森林公園」、「ホテル湖（浅虫ダム）」の情報も取り入れました。

「青森の食」を PR するのに意外と手間取ったのは、棒パンの魅力を伝える内容を考えることでした。私たちにとって身近なものだったので、いざ魅力を伝えるとなると悩んでしまいましたが、やってみると絶対に楽しい、美味しいと思える棒パンの魅力が伝わる投稿になるよう頑張りました。

「あおもり海道そば」は、子ども会議フォーラムで教えてもらった「学校給食摂取基準」を参考に作る量を考え、1月に改めて作りしました。基準に沿って作ったことで無理なく食べ切ることができたので、フォーラムで知れて良かったです。また、試食する中で「食べやすい」のはスーパーで売っている普通のそばだったのに、「つつい箸が伸びてしまった」、「また食べたくなった」のはあおもり海道そばだったことが面白い気づきでした。話し合った結果、「よりそばの香りがあって、それを美味しいと感じるからでは？」という意見にまとめ、食べ比べをしたからこそ分かった魅力も、公式 Instagram で発信したので、よりたくさんの人に魅力を伝えることができましたと思います。



続いて、Improve A. B. C. では、「ごみの量を減らす・リサイクルをする」ために自分たちでできることをみんなで考え、公式 Instagram に投稿し、フォロワーの皆さんにもリサイクルや分別を心がけてもらえるよう呼びかけました。また、「低い読書率」を向上させるために、自分たちのおすすめの本を合計6件投稿しました。

それから、フォーラムでの「自分たちでもいじめを防ぐためにできることを考えてほしい」との回答から、自分たちでできることを話し合い、投稿してみました。投稿する写真は、その場面のイメージが付きやすいような写真を撮影し、みんなでアドバイスをし合いながら、良い写真を撮ることができました。

次に、「青森市の魅力づくりの手伝い」として、「仮想まちづくり」の取組を進めてきました。医療施設に関して改めて考え直し、小児科を増やすことや、名産品の観光施設“アップルテーマパーク”、浪岡にマック、浪岡動物園、地域の工芸品などの PR のため“伝統工芸品市場”の建設を考えました。陸奥湾に浮かぶ“あおもりシーパーク”などの意見もありましたが、お互いに納得するまで話し合った結果、青森市は冬になると雪が積もり外での遊びは限られてくるので、天候に左右されることな

い室内テーマパークを浅虫に建設することになりました。話し合いでは、出た意見に対して賛成意見だけではなく、「本当に必要なのか」、「冬のことも考えているのか」などの意見も出て、理想だけではうまくいかないことを知りました。



2月には、ゲームを通して「子どもの権利」を考えてもらうことを目的に、フォーラムで西市長からいただいた「対話」も大切にしたい「子どもの権利トークイベント」を開催しました。また、イベント中のトークテーマを決めるときには、「集団の中で何かを決めるとき、多数決がととても多い」ことに気づいたので、少数派の意見も反映されるように「子ども会議流のボルダールール」で決めました。自分の意見を押しつけるのではなく、相手の意見も尊重しながらトークすることは実践してみると難しい部分もありましたが、これからも対話を大切に活動をしていきたいと思います。

このように、活動テーマである「もっと魅力あふれる青森市に！」するために、今年1年いろいろな活動することができました。自分たちで企画したグループ活動ができたこと、フォーラムで自分たちの知らなかったことを教えていただいたこと、そしてなによりも自分たちの意見提案に真剣に応えてくれたことが一番嬉しかったです。今年も1年間、青森市子ども会議の活動にご支援くださりありがとうございました。

令和5年度青森市子ども会議活動報告書の提出

発表が終わった後、「今年度、私たちが楽しく活動できたのも、西市長をはじめ、みなさんのご協力をいただいたからです。ありがとうございました。」との言葉を添え、活動報告書を市長に手渡しました。あわせて、今年度作成した子どもの権利普及啓発Tシャツもプレゼントしました。



卒業委員から後輩委員へのメッセージ

6年間子ども会議委員として活動させていただいて、中学校の頃は先輩から言われたことをやるだけでしたが、高校生になって、急に頼られるようになり、自分から行動しなきゃいけないという場面がとて多くなりました。みんなもそうなった時に、自分たちが今まで先輩やサポーターがしていたこと



を考えて活動してほしいです。この活動を通して、青森市の魅力を再発見するいい機会になると思うので、自分から意見を出して、もっとよりよい青森市にできるようにたくさん活動してほしいなと思います。今までありがとうございました。

後輩委員から卒業委員への感謝の言葉

頼れる先輩方が卒業し、不安や心配な部分も大きいですが、頼れる後輩もたくさん入ったので、自分も先輩のように後輩を引っ張っていけるように頑張りたい思いとともに、先輩方の活動を継いで頑張っていきたいと思えます。いつも支えてくださってありがとうございました。これからも体に気を付けて頑張ってください。



市長からの感想

皆さん、報告していただきありがとうございました。オシ隊の皆さんも Improve A. B. C. の皆さんも、地域の魅力や地域の課題をきちんと把握して、それをどうやってうまく活かしていくのかということを考えているのがよくわかりました。第一回会議、子ども会議フォーラム、そして今回の活動報告会と、日に日に皆さんが成長していることが実感できてとても嬉しく思っています。



その中でも多数決で物事を決めることが多いことに気づいたことが素晴らしかったです。少数派意見の中にも大事な意見が必ずあります。それを上手く掬い上げて、自分たちの活動に活かしていくというプロセスがすごく重要です。多数決だけが物事を決める全てではないので、皆さんが言ったように“ボルダールール”も1つの手法になりますし、みなさんが覚えてくださっていた「対話」もまた1つの手法になります。対話をしてその会議の場では結論が出ないかもしれません。けれど出ないということはいろんな意見があるということです。無理やり結論を決めるのではなく、対話を重ね、みんなが納得できる方法を考えることが重要だと思います。

そして、私自身、自分たちの頑張りにより街がちょっとだけ魅力的になった、ちょっとだけ良くなったと実感する気持ちを、市民一人一人の心にも持ってもらうためにいろんな活動を進めています。そうなることで地域を愛する気持ちになるし、地域に対する誇りにもなります。現在、皆さんが青森市ってちょっといいでしょって自慢できる街になるために、魅力を大きくするよう頑張っていますが、皆さんも私が考えていることと同じようなことに取り組んでくれたので、とてもありがたいと思っています。

最後に、卒業委員から後輩委員へのメッセージがあり、また、後輩委員の代表から先輩委員に対する感謝の言葉がありました。こうやって少しずつ人は変わっていきますが、子ども会議の目的というのは変わらず続いていくと思いますので、後輩の皆さんは新しい仲間も入れながらさらに頑張ってもらいたいと思います。

皆さんが頑張ることで、この街が少しずつ良くなっていくという自覚を持って、これからも頑張ってください。今日は非常に良い活動報告を聞くことができました。ありがとうございました。

今年度の活動を振り返って

活動報告会を終え、会議室に戻り今年度の活動を振り返りました。卒業委員へ感謝の気持ちをこめたプレゼントも渡し、喜んでもらえたところで、令和5年度の子ども会議の活動はすべて終了しました。

みなさん1年間お疲れさまでした。



令和 5 年度青森市子ども会議委員名簿

区分	氏名	学年
小学生	太田 寛人	5 年
	北畠 陽莉	5 年
	鳶谷 徠夢	5 年
	三浦 一真	5 年
	大瀧 志宇	6 年
	西田 充敬	6 年
	張山 雅晴	6 年
	野戸谷 芹那	6 年
中学生	小川 紗悠華	1 年
	乙崎 陽夏乃	1 年
	小野 結仁	1 年
	後藤 美侑	1 年
	舘山 隼杜	1 年
	長谷川 巧	1 年
	阿部 要太	2 年
	千葉 咲樂	2 年
	横山 伊織	2 年
	工藤 慶宗	3 年
	野戸谷 朱莉	3 年
	松谷 雄史	3 年
高校生	奥谷 真央	1 年
	細川 侑寧	1 年
	里村 琉星	2 年
	荒井 ひいな	3 年
	木立 倭乎	3 年

小学生 8 名、中学生 12 名、高校生 5 名 計 25 名

令和 5 年度青森市子どもサポーター名簿

氏名	所属先	氏名	所属先
作間 萌々	早稲田大学	乗田 零杏	弘前大学
佐々木 世奈	青森公立大学	濱田 華音	株式会社 太陽不動産
諏訪 かほる	弘前総合医療センター附属看護学校	森 慶祐	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
関 智朗	八戸工業高等専門学校	横山 結菜	青森公立大学
中島 このか	青森医師会立准看護学院		

青森市子どもの権利条例

平成二十四年十二月二十五日

条例第七十三号

青森市は豊かな青い森に抱かれたまちです。森では、木々、草花、鳥や虫など数え切れない生きとし生けるものが生まれ、育まれています。これらが互いに深く結びつき、共に支え合う森は、新たないのちのゆりかごであり続けます。

私たちは、この青森市が、生きる力みなぎる子どもが育つ大きなゆりかごであって欲しいと願っています。

そこでは、子どもと大人が育ち合い、学び合う関係が大切にされなければなりません。そのことによって、子どもは、他者を尊重しながら共に支え合い、青森市の文化や伝統を受け継ぎ、未来を切り開いていくことができるのです。

日本は、世界の国々と児童の権利に関する条約を結び、子どもだからこそ認められるべき権利を保障し、自分らしく生きることを大切にすると約束しています。

市は、この条約に基づき「子どもに関係のあることを行うときには、子どもにとって今もっとも良いことは何かを第一に考える」という「子どもの最善の利益」（同条約第三条）を基本理念として、子どもが健やかに育つための環境づくりを進めてきました。

市が設置した青森市子ども委員会の子どもたちは、子どもの権利について学ぶ中で、「人はそれぞれ個性をもち、誰もが大切な存在として同じところ、違うところを認め合うことが大事である」、「大人は、子どもの意見に最後まで耳を傾けてほしい」、「ちょっとしたことでも、『あなたには、こういう良いところがある。』と言ってほしい」と宣言しています（平成二十三年三月子ども宣言文）。

私たちは、子どもが他者と共に生き支え合う市民として成長する青い森のまちづくりをめざし、子どもの権利を保障することを表明し、この条例を制定します。

第一章 総則

（目的）

第一条 この条例は、子どもが愛情をもって生まれ、毎日をのびのびと生き、自分らしく豊かに成長し、発達していくことができるよう、子どもにとって大切な権利の保障を図ることを目的とします。

（定義）

第二条 この条例で、次に掲げる用語の意味は、それぞれ次に定めるとおりとします。

- 一 子ども 十八歳未満の人その他これと等しく権利を認めることが適当であると規則に定める人をいいます。
- 二 大人 過去に子どもであった全ての人をいいます。
- 三 保護者 親や親に代わり子どもを養育する人をいいます。
- 四 育ち学ぶ施設 保育所、学校、児童養護施設その他子どもが育ち、学ぶことを目的として通園し、通学し、入所し、利用する施設をいいます。

(基本的な考え方)

第三条 子どもの権利の保障は、次の基本的な考え方に従って進められなければなりません。

- 一 子どもの最善の利益を優先して考えること。
- 二 子ども一人一人が権利の主体として尊重されること。
- 三 子どもの成長と発達に配慮した支援が行われること。

(大人の責務)

第四条 保護者は、子育ての第一の責任者として、子どもの権利を尊重しなければなりません。

- 2 育ち学ぶ施設の関係者は、子どもが自分らしく成長し、発達していくために育ち学ぶ施設が大切な役割を持つことを認識し、子どもの権利を尊重しなければなりません。
- 3 地域住民は、地域が子どもの成長と発達にとって重要な場であることを認識し、子どもの権利を尊重しなければなりません。
- 4 第一項の保護者、第二項の育ち学ぶ施設の関係者、第三項の地域住民のほか、大人は子どもの権利を尊重しなければなりません。

第二章 子どもにとって大切な権利

(子どもにとって大切な権利の保障と互いの権利の尊重)

第五条 子どもには、成長し、発達していくために、この章に定める大切な権利が保障されなければなりません。

- 2 子どもは、自分の権利が尊重されるのと同じように、他人の権利を尊重しなければなりません。

(安心して生きる権利)

第六条 子どもには、安心して生きるために、次のことが保障されなければなりません。

- 一 命が守られ、平和で安全な環境のもとで暮らすこと。
- 二 愛情をもって育まれること。
- 三 食事、医療、休息が保障され、健康的な生活を送ること。
- 四 いじめ、虐待、体罰その他身体的、精神的暴力と有害な環境から守られること。
- 五 性別、国籍、障害などを理由に、いかなる差別も受けないこと。
- 六 困っているときや不安に思っているときには、相談し、支援を受けることができること。

(自分らしく生きる権利)

第七条 子どもには、自分らしく生きるために、次のことが保障されなければなりません。

- 一 自分の個性や他人との違いを認められ、一人の人間として尊重されること。
- 二 自分自身の夢や希望を持ち、可能性に挑戦すること。
- 三 プライバシーや自らの名誉が守られること。
- 四 自分が思ったことや感じたことを表現すること。
- 五 自分にとって必要な情報や知識を得ること。
- 六 自分にとって大事なことを年齢や成長に応じて、適切な助言や支援を受け、自分で決めること。
- 七 安心して過ごすことができる時間や居場所を持つこと。

(豊かで健やかに育つ権利)

第八条 子どもには、豊かで健やかに育つために、次のことが保障されなければなりません。

- 一 遊ぶこと。
- 二 学ぶこと。
- 三 芸術やスポーツに触れ親しむこと。
- 四 青森の文化、歴史、伝統、自然に触れ親しむこと。
- 五 まちがいや失敗をしたとしても、適切な助言や支援を受けることができること。

(意見を表明し参加する権利)

第九条 子どもには、他人の意見を尊重しつつ、自分の意見を表明し、社会に参加するために、次のことが保障されなければなりません。

- 一 家庭、育ち学ぶ施設、地域などで、自分の意見を表明すること。
- 二 自分にとって重要な決定が行われる場合は、自分の意見を主張できること。
- 三 自分の表明した意見に対し、適切に配慮されること。
- 四 仲間をつくり、集まり、活動すること。

第三章 子どもにとって大切な権利の保障に関する市の責務と取組

(子どもの権利の普及啓発と学習支援)

第十条 市は、子どもの権利の普及を図るため、子どもと大人が共にこの条例と子どもの権利について適切に学び、理解するための機会を提供するものとします。

- 2 市は、毎年十一月二十日を「青森市子どもの権利の日」とし、この日にふさわしい活動を行うものとします。

(子どもの育ちへの支援)

第十一条 市は、子どもの豊かな育ちを支援するため、次のことに取り組むよう努めなければなりません。

- 一 子どもに健全で多様な生活体験や交流の場と機会を提供すること。
- 二 子どもが安心して過ごすことができる居場所づくりを進めるとともに、子どもが相談できる場と意見表明し社会に参加する機会を提供すること。

(保護者への支援)

第十二条 市は、保護者が安心して子育てができるよう支援に努めなければなりません。

- 2 市は、特別に支援が必要な保護者に対しては、それに応じた支援に努めなければなりません。

(子どもの命と安全を守る取組)

第十三条 市は、いじめ、虐待、体罰その他身体的、精神的暴力の防止と早期発見に努めるとともに、それら子どもの権利の侵害からの救済に必要な取組を実施するものとします。

- 2 市は、子どもが薬物、犯罪などの被害を受けないように、必要な取組を実施するものとします。

(子ども会議)

第十四条 市は、市政などについて、子どもが意見を表明し参加する場として、青森市子ども会議（以下「子ども会議」といいます。）を置きます。

2 市は、子どもに関わることを検討するときは、子ども会議の意見を尊重するよう努めなければなりません。

(子どもの権利の保障の行動計画と検証)

第十五条 市は、この条例の目的を達成するため、子どもの権利の保障に関する行動計画（以下「行動計画」といいます。）を定めるものとします。

2 行動計画の検証は、青森市健康福祉審議会条例（平成十八年青森市条例第四十三号）に定める児童福祉専門分科会で行うものとします。

3 行動計画の検証を実施するに当たっては、子ども会議の意見を尊重するよう努めなければなりません。

第四章 子どもにとって大切な権利の侵害からの救済と回復

(相談と救済)

第十六条 市は、子どもの権利の侵害に関する相談や救済について、関係機関などと相互に協力と連携を図るとともに、子どもの権利の侵害の特性に配慮した対応に努めなければなりません。

(子どもの権利擁護委員)

第十七条 市長は、子どもの権利の侵害について、子どもやその関係者から相談や救済の申立てを受け、その救済と権利の回復のために必要な調査、助言、支援などを行い、これらの調査などの結果を踏まえた是正措置や制度改善の勧告や要請を行うなどのため、青森市子どもの権利擁護委員（以下「委員」といいます。）を置きます。

(委員の職務)

第十八条 委員の職務は、次に掲げるとおりとします。

一 子どもやその関係者から相談を受け、助言、支援、関係者間の調整を行うこと。

二 子どもやその関係者から救済の申立てを受け、事実の調査や関係者間の調整を行うこと。

三 子どもやその関係者から救済の申立てがなくても、その救済と権利の回復のために必要があると認めるときは、事実の調査や関係者間の調整を行うこと。

四 第二号、第三号の規定による調査などの結果、必要があると認めるときは、是正措置や制度改善について、関係する市の機関に対する勧告や市の機関以外のものに対する要請を行うこと。

五 第四号の規定により勧告や要請を行った後に、必要があると認めるときは、その是正措置などの状況に関しこれらの勧告などを受けたものに報告を求め、その内容を救済の申立てを行った人などに伝えること。

2 委員は、第一項第二号、第三号の事実の調査を次の方法により行うことができます。

一 関係する市の機関に対し説明を求め、その保有する文書その他の記録の閲覧や提出を要求し、実際に調査すること。

二 必要な限度において市の機関以外のものに対し、資料の提出、説明その他の必要な協力を求めること。

(委員の人数、任期など)

第十九条 委員は、三人以内とします。

- 2 委員は、人格が優れ、子どもの権利に関し専門的知識と経験を持つ人のうちから、市長が委嘱します。
- 3 委員の任期は三年とし、再任を妨げません。
- 4 委員は、職務上知ることができた秘密を漏らしてはなりません。委員の職を離れた後も同様とします。
- 5 委員は、第四項に定めるもののほか、その職務を遂行するに当たって、次のことを守らなければなりません。
 - 一 子どもやその関係者の人権について、十分に配慮すること。
 - 二 相談や救済の申立てなどの内容に応じ、関係機関などと協力して、その職務を行うこと。
- 6 市長は、委員が第四項前段の規定に違反したことが判明したときやその職務の遂行に必要な適格性を欠くと認めるときは、これを解嘱するものとします。

(勧告の尊重と委員への協力)

第二十条 第十八条第一項第四号の規定により勧告を受けた市の機関は、その勧告の内容を十分に尊重しなければなりません。

- 2 第一項に定めるもののほか、市の機関は、委員の職務に積極的に支援や協力をしなければなりません。
- 3 市の機関以外のものは、委員の職務に協力をするよう努めなければなりません。

(調査相談専門員)

第二十一条 市長は、子どもの権利の侵害について、子どもやその関係者から相談を受け、委員と連携し、必要な調査、助言、支援を行うため、調査相談専門員を置きます。

第五章 雑則

(委任)

第二十二条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定めます。

附 則

(施行期日)

この条例は、公布の日から施行します。ただし、第四章の規定は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において規則で定める日から施行します。



青森市民憲章

わたくしたちは、青い空、青い海、青い森にいだかれ、悠久の歴史と香り高い文化と伝統に満ちた青森市の市民です。

わたくしたちは、郷土あおもりを心から愛し、夢と希望にあふれたしあわせなまちとするためこの憲章を定めます。

- 1 自然をたいせつにし
美しいまちにしましょう
- 1 元気に働き
活気のある豊かなまちにしましょう
- 1 たがいに助け合い
あたたかいまちにしましょう
- 1 笑顔でふれあい
明るく平和なまちにしましょう
- 1 楽しく学び
いきがいを感じるまちにしましょう

平成 17 年 4 月 27 日制定



市の木
【あもりとどまつ】



市の花
【はまなすの花】



市の鳥
【ふくろう】



市の昆虫
【ホタル】



青森市子ども会議考案キャラクター

「けんりはかせ」

**令和5年度
青森市子ども会議活動報告書**

青森市福祉部子育て支援課

〒030-0801 青森市新町一丁目3番7号

TEL : 017-734-5320 / FAX : 017-763-5678

HP <https://www.city.aomori.aomori.jp/>